

## 教育委員会会議の概要（令和2年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和2年7月17日（金）午後2時から午後5時38分まで
- ◆ 場 所 仙台市役所本庁舎 第1委員会室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	佐 々 木 洋	出席
委員・教育長職務代理者	吉 田 利 弘	出席
委 員	花 輪 公 雄	出席
委 員	中 村 尚 子	出席
委 員	里 村 正 治	出席
委 員	阿子島 佳美	出席
委 員	梅 田 真 理	欠席

### ◆ 会議の概要

#### 1 開 会

#### 2 議事録署名委員の指名 阿子島委員

#### 3 協議事項

##### （1）令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長 説明）

指 導 主 事 中学校社会地理について説明する。

中学校社会地理では、地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するため、「（1）我が国の国土及び世界の諸地域に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする」、「（2）地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」「（3）日本や世界の地域に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚を深める」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、社会地理に関して、小学校との接続はもちろん、高等学校地理科との接続も踏まえ、世界の諸地域の学習において地球規模の課題等を主題と

して取り上げた学習を充実させるとともに防災・安全教育に関して、空間情報に基づく危険の予測に関する指導を充実させるといった趣旨で内容が改訂された。

内容については、世界と日本の地域構成を冒頭に位置付け、「小学校の学習内容を振り返るとともに、地理的技能の基本を身に付けること」、「地域調査において技能の習得と地域の課題を解決する学習に分け、確実に実施すること」、「世界の諸地域学習において、地球的課題の視点を追究の視点として位置付けること」「日本の諸地域学習において、考察の仕方を柔軟化し、動態地誌的な学習の展開をすること」、「自然災害や防災の実態等を踏まえ、生徒の生活圏における防災に関する学習を深めること」のように取り扱い等が変化している。

協議会において、取りまとめた中学校地理の全発行者の特長は、別添2の12ページに示している。

主な特長については、まず、A者は、小学校の学習内容との関連を図り、系統的な学習ができるように配慮されているということである。

次に、B者は、「地理の窓」は、学習内容の関連情報が分かりやすくまとめられ、関心が高まるように工夫されているということである。

次に、C者は、他教科との関連に加え、歴史的分野、公民的分野と関連が図られ、横断的な学習ができるように配慮されているということである。

次に、D者は、実社会の人々の声や取組が豊富に掲載され、それを基に生徒同士が意見交換をすることで、対話的な学習ができるように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。よろしいか。

里 村 委 員 審議に入る前に質問がある。地球環境問題や持続可能な開発目標SDGsといった現代的な諸課題に関して2点確認をしておきたい。

1点目は、4年前の教科書採択と比較して、現代的な諸課題についての文部科学省の学習指導要領はどのように変わってきているのかという点である。

2点目は、地球環境問題やSDGs等について、公民でも地理でも取り上げているが、それぞれの教科で取り上げている視点の違いについてである。

指 導 主 事 1点目の質問に対してお答えする。

新しい学習指導要領では、社会地理に関して内容が改訂され、その中の1つに世界の諸地域学習において、地球的課題の視点を追究の視点として位置付けることがあり、持続可能な開発目標などに記された課題のうちから、生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題やエネルギー問題を取り上げ、地域的特長の影響を受けて現れ方が異なることについて理解し、関連付けて考察し、表現することと示されている。

2点目の質問に対してお答えする。

公民では、私たちと国際社会の諸課題の学習の中で、持続可能な開発目標を現代社会における解決すべき課題として捉え、国際協調の観点から、我が国の世界平和と人類の福祉の増大のためにできる役割について理解し、考察することを視点としている。

地理では、世界の諸地域の学習の中で地域的特色と関連付けて、地球的課題の要因や背景を考察することを視点としている

教 育 長 他にないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたい。

中 村 委 員 どの者もととも美しい写真を多く掲載していて、見入ってしまった。また、内容も充実していて、どれも良い教科書になっていると感じた。

まず、A者である。巻頭の「地理との出会いー地理的な見方・考え方って？」では、地理的な学習の観点を5つに分け、小学校の学習を基に地理学習を分かりやすく説明しており、中学校の学習にスムーズに入ることができるように配慮されている。また、地理的な見方・考え方を、巻頭の見開きに加えて本文にも掲載することで、毎時間確認できるように工夫されている。

学習内容に関連する事柄を紹介している「地理+α」では、生徒が興味・関心を持って学習内容を深められるコラムとなっている。「スキルUP」では、学習を系統立てて習得できるように必要な技能を詳しく解説しており、学習の手助けとなるような配慮がなされている。「チャレンジ地理」では、学習に関連した具体的な課題を自主的に調べたり、議論したりして解決することで、学習内容の理解を深められるようになっている。

さらに、「自由研究」が豊富で、地理的な話題を主体的に考えられるようになっており、学習内容のより深い理解につながるように工夫されている。

B者である。冒頭に地理だけでなく、中学の社会科の学習に触れてから、改めて地理についての説明をしていることで、地理の社会科の中での位置を確認して学習に入ることができるように工夫されている。

「地理にアプローチ」では、小学校の学習を振り返りながら、中学校の学習にスムーズに入っていけるように工夫されている。

学習コラム「地理の窓」が豊富で、学習内容の関連情報が多く掲載され、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。

地図やグラフの扱い方などを学習できる「地理の技」では、資料活用に必要な力を育て、学習の定着が図られるように工夫されている。

日本と世界の環境や人権問題、また、世界の文化等を考える「特設ページ」があり、他教科との横断的な学習ができ、文化の多様性を理解し、人権を尊重する態度が育成されるように工夫されている。

C者である。「スキル・アップ」では、地理の学習を進める上で基礎的・基本的な技能を詳しく解説しており、学習の手助けとなるように配慮されていると思う。

「みんなでチャレンジ」のコーナーがあり、言語活動が充実し、主体的・対話的な学びができるようになっている。「もっと地理」では、学習内容を深めたり、広げたり、違う視点で捉えたりするようになっており、学習内容を踏まえ、課題を主体的に考えられるようになっている。

各章の初めに、小学校で学習した内容が写真と用語で示され、中学校の学習にスムーズに入っていけるように工夫されている。

世界遺産、文化遺産にマークが記され、世界と日本の自然や伝統文化を尊重する態度を養うことができるようになっている。

D者である。「技能をみがく」では、地理の学習をする上で基礎的な技能を詳しく解説しており、学習の手助けとなるように配慮されている。

持続可能な開発目標、SDGsに関連したコラムを多く掲載し、SDGsの内容が理解しやすく、他教科との横断的な学習にもつながるように工夫されている。

各ページの下部に、学習内容に関連した小学校での既習項目、既習事項等が示され

ており、学びの継続性が分かるように工夫されている。

日本の各地方の地域社会に関する取組を紹介する「特設ページ」があり、地域の問題に対し主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

学習内容に関連する事柄を紹介している「地理プラス」では、生徒が興味・関心を持って学習内容を深められるコラムとなっている。

また、実際にそこに住む人々の声や取組が豊富に掲載されており、対話的な学習ができるように工夫されている。

里 村 委 員 ただいま事務局の方からご説明いただいたように、地理の教科書においては、世界の諸地域の学習の中で、地域的特色と関連付けてグローバルな課題の要因や背景を考察するという観点からも検討した。

あわせて、中学生に海外も含めて将来いろいろなところに行ってみたいという興味や関心を高めてほしいという思いから、生徒の世界への興味や関心、好奇心を育むという観点でも検討を行った。

A者である。小学校での学習内容との関連を図り、スムーズに中学校の学習に入れるようなきめ細かな工夫がなされているということが特長である。また、生徒の関心を引き出すように工夫されたコラムを効果的に掲載している。

世界から日本へ視点を移すことによって、歴史的視点からの学習が可能になるように工夫されている。東日本大震災に関する記載の量も比較的多いと感じる。

B者である。全体的に知識の習得にも力点が置かれた内容になっているという印象を持った。地理的分野においては、当然のこととして「場所について学ぶ」というところに重点が置かれているように思う。

各テーマの振り返り欄の「ワードチェック」もしっかりと構成されている。

学習する地理の内容について、「世界と日本の地域構成」、「世界のさまざまな地域」、そして「日本のさまざまな地域」と3分類にしている点も特長である。

C者である。内容が豊富で、興味深く、話題性もある教材が掲載されている。基礎的・基本的な知識、概念や技能を身に付ける上で適した教科書だと思う。地理といっても、人々の暮らしに焦点を当てた教科書になっており、また、世界を俯瞰し、欧米偏重になっていないという点でも評価したい。特に、日本編では、自然災害、防災・減災への取組等、教材をもってSDGsを教える立てつけになっている。

D者である。地図の部分だけでなく、世界の国々や日本の各地の特色や文化や生活を基に、分かりやすくまとめた内容になっており、全体に整った教科書だと思う。

環境、産業、開発の順で、学習のまとめが構成されており、生徒の思考力を育てる良い内容である。

生徒同士の意見交換がスムーズに進むように、あるいは対話的な学習ができるように実社会の人々の声や取組を掲載しており、良い工夫だと思う。

丁寧な表現で個別の説明がなされ、添えられた大きな資料も含めて地域の特色が具体的で分かりやすい。

最後に、学習を振り返るページが設けられており、生徒にとって地図や図表を用いて基礎的・基本的な内容の確認に役立つ構成になっている。

吉 田 委 員 前回同様、地理も主に授業改善の3つの観点から見させていただいた。

まず、A者である。3つの編で構成されており、第1編は、小学校での学習を踏まえた地理学習のレディネスとなり、スムーズに移行できるように配慮されている。

次に、学習への見通しの点については、一単位時間の学習の流れがパターン化されており、生徒が一定の学習リズムを保てる工夫がなされている。

また、各時間の初めに、「学習課題」に合わせ解決のための着眼点が示され、見通しを持って学習に臨むことができるものと思われる。さらに、その課題に対して振り返りの観点が示されているとともに、それとは違った視点から問いかけるコーナーも設定され、学びを確かなものにし、深い学びへと結び付けている。

深い学びに関しては、各章のまとめのページに、テーマに沿った表作りの作業や話し合い、創作活動、シンキングツールを用いた思考活動など、様々な活動が提案されている。

その他として、数多くの「自由研究」テーマを設定していることも特長である。

次に、B者である。各編や各章の扉に、見開きで写真資料が掲載され、学習への期待を持たせる編集となっている。また、見開き一単位時間の編集で、1時間の課題が設定され、それに呼応した形で振り返りの観点が示されており、並列して発展的な学習も提案されている。

振り返りについては、章ごとにまとめのページがあり、学習事項の確認だけでなく、文章表現や意見交換の場面が設定されていることが特長である。

また、世界、日本の地域ごとに視点を変えて学習内容を捉え直し、考えをまとめる活動を促す「地域から世界を考えよう」を設定し、知識の関連付け、情報を基に自分の考えを形成することに結び付けている。

続いて、C者である。地理学習の小・中学校接続に関しては、章の扉の写真に簡単なコメントを記すなど、配慮が感じられる。

学習に見通しを持つことについては、他者と同様、「学習課題」が設定されており、太字にし、認識しやすいように意を配している。

振り返ることについては、学習事項の確認と説明による表現活動での振り返りになっていることが特長である。また、章ごとのまとめがあり、中でも企画書の作成、クイズ作り、番組の制作等の模擬的な活動は生徒の学習意欲を高めるものと思われる。

深い学びについては、世界、日本の地域ごとに視点を変えて学習内容を捉え直し、考えをまとめる特設のページがあり、学びを深めることができるものと思われる。

その他として、「地域調査の在り方」では、全体を見通した活動ができるとともに、各ステップで、何をどのように行うのか、生徒が理解しやすい編集であることが印象的である。

最後に、D者である。まず、各章の扉や各時間の資料として掲載されている写真が、地域の特長を的確に表す内容になっており、生徒の関心を引くものである。また、これらの写真を学習の振り返りの場面で活用させたり、写真場면을地図上で確認させたりするなど、学習効果を上げるための活用方法を講じている。

学習への見通しについては、各章、各節の初めに学習内容に関する問いかけがあることで、全体を通した学習の見通しを立てることにつながるとともに、各時間においても、太字で「学習課題」を表記し、学習の見通しを認識させる意図が感じられる。

振り返りについては、各時間、2つの観点を設けており、その観点の1つである「説明しよう」という表現活用を伴う振り返りは、学習内容の定着を確かなものにすると思われる。

また、節ごとに学習事項の確認を行うとともに、図表に記入したり、それを基に考

え、発表したりしながら、思考力、表現力を高める内容になっている。

花輪委員 社会の地理的分野は、日本や世界で起こる様々な社会事象、自然事象の背景にある地理的要素を理解するための知識と技能を養うとともに、地域の地理的課題を見出し、それを克服するための「構想する力」を養うことを目標としている分野であると理解した。

今回、4者から教科書の提案があったが、いずれの者も、先の目的を達成するよう工夫がなされた教科書である。

教科書の外形的なことだが、大きさは4者ともA B判を採用している。本文のページ数もほぼ同じで、290ページ程度となっている。

内容は、4者とも学習指導要領に従い、「世界と日本の地域構成」「世界のさまざまな地域」「日本のさまざまな地域」の3部構成に分かれている。

また、2015年に策定された国連の持続可能な開発目標SDGsを濃淡はあるが、各者意識的に取り上げている点が特長である。

以下、各者に対する寸評である。

A者である。冒頭に教科書の構成を示し、次に導入からまとめまでの学習の流れを説明、加えて学びの中心となるテーマの追究の基本構成も示していることは、生徒にとって大変分かりやすい導入部だと思う。

また、深い学びをするための資料をいくつかのカテゴリーで多数準備している点も、この者の特長である。具体的には主体的・対話的な考察を求める10項目にわたる「アクティビティ」、13項目にわたる「自由研究」、さらには、「地理+α」と名付けられたコラム16項目、そして30項目に及ぶ「スキルUP」と称するテーマである。

この者は、世界や日本の地域を学ぶ場面で、例えばアジア州であれば、「人口や経済発展をテーマに」等、その地域が抱える課題に副題を付けて、あらかじめ問題提起をするなどの工夫をしている。

そのほか、東日本大震災を大きく取り上げるなど、防災や震災に関して多く記述をしている点も特長である。

B者である。この者は、初めに、小学校社会科と中学校社会科の違いを説明し、地理では、世界の地域が抱える課題とSDGsの関連を取り上げることが宣言している。この者も、「学習課題」を表題のすぐ下に示し、あらかじめ問題意識を持って学習できるように配慮されている。

副教材としては、50数項目のコラム「地理の窓」、「地理の技」と名付けた地図やグラフの使い方を学ぶコーナー、さらには、「地域から世界を考えよう」、「現代日本の課題を考えよう」と名付けた「特設ページ」を設け、生徒に深い学びを促している。「特設ページ」では、地域が抱える問題とは何かを意識して、生徒に問いかけており、知識以上の見方を養う工夫がなされている。

この者の地域調べでは、名古屋を取り上げているが、最後の「地域のあり方」では、特定の地域を挙げることなく、一般的に論じている点が特長である。

この者は、主要ページのデザインを定型化しており、とりわけ読みやすい教科書になっているとの印象を持った。

C者である。この者も多くの副教材を準備し、深い学びと技能習得が行えるような内容となっている。また、この者は、地域の学習に際して、その地域の課題を示すような副題を付けて、あらかじめ問題提起をしている点が特長である。

また、この者は、章の最後に「基礎・基本のまとめ」に加え、「まとめの活動」を配している点も特長であり、深い学びができるような構成となっている。

さらに、学習指導要領で想定している地域の調べと地域のあり方という2つのグループ活動に加え、「みんなでチャレンジ」として6テーマを設定し、グループでの学習活動を促している点も特長である。

次に、D者である。目次の後にある、この教科書をどのように使うのかを説明した4ページ分のガイダンスでは、学習の見通しや振り返り、1つの単位での学習の流れがとても分かりやすく説明されている。また、対話的な学びや深い学びのためにコラムなども多数掲載されている。

この者が重要視している点は、持続可能な社会の実現であり、「未来に向けて」のコラムでは、SDGsに関連したテーマを25も取り上げ、その取組を紹介している。

学習する項目は、各項目見開き2ページにまとめられており、その中に導入、本文、グラフなどの資料、関連するコラム、「確認しよう」、「説明しよう」という欄が掲載されている。これらの項目は定型化された配置となっており、分かりやすく親しみやすい教科書となっている。

さらに、構成の面で、この者特有のものがある。他者は、学習指導要領に合わせ、日本の地域の最後の章を「地域の在り方」としているが、この者だけ第4部として独立させている。量的に十数ページの短いものだが、課題を見付け、克服する手立てを構想するという力を養うことが重要であるという、この者の意思表示だと思える。

阿子島 委員 まず、A者から申し上げる。巻頭に「地理との出会い」で、地理的な見方・考え方についての説明がされている。その後、教科書の構成と使い方が記載され、「第1編 世界と日本の地域構成」、「第2編 世界のさまざまな地域」、「第3編 日本のさまざまな地域」の3編による構成になっている。

様々な社会的事象の特色や地理的技能についての解説を基にした知識・技能の習得、地理的な見方・考え方を示し、思考力や判断力、表現力等の育成を図るように工夫されている。

写真やイラストを多数掲載し、多様なコラムを各ページに設けるなど、生活経験の少ない生徒も具体的なイメージを持ち、興味・関心を高めて学習の展開ができるように工夫されている。

「世界の諸地域」、「日本の諸地域」の単元では、単元の導入、地域の大観、追究、まとめ、振り返りの構成となっており、課題解決型の学習を進めやすい工夫がなされている。

単元の追究の場面においては、主体的な学びや対話的な学びから深い学びへと学習が深められるような構成になっている。

小学校の学習や歴史的分野、公民的分野との関連を示すとともに、伝統文化や防災に関する学習も取り入れ、他教科や総合的な学習の時間との関連にも配慮されている。

特に、災害、防災教育では、豊富な事例と実践的な学びを行えるように配慮されていると感じた。

最新のトピックや現地で活躍する人物に取材した内容を多数紹介しており、生徒にとって興味深く、身近に感じられるように配慮されている。

次に、B者である。初めに、「さあ、地理の学習を始めよう」と題して、「小学校の社会科の学習を振り返ろう」や「中学校の社会科の学習を知ろう」「地理的な見方・

考え方」とこれからの学習内容が説明されている。

さらに、「教科書の使い方」、「地理にアプローチ」と続いており、小学校での学習を確認しながら、中学校1年生の学習にスムーズな接続が図られるよう配慮されている。

生徒の日常と関連の深い事象に関する写真資料やコラム「地理の窓」を多数掲載し、生徒の興味・関心を生かした学習が展開できるように工夫されている。

東北地方の中心都市として仙台市も掲載されている。また、自然災害については、地震だけではなく、川の地形と液状化現象等についても取り上げられており、防災について生徒に広い視野を持たせるように配慮されている。

世界、日本の諸地域の学習では、どの単元も導入において、自然環境と人口分布等が掲載され、その後の学習が展開される構成になっている。

「学習のまとめと表現」では、知識・技能の定着や思考力、判断力、表現力等の育成と学習内容の活用が図られている。

環境や人権を取り上げた「特設ページ」は、総合的な学習の時間や道徳科、理科等で活用し、社会科との関連が図られるように工夫されている。

「地理の技」では、資料の読み取り方の手順が示されており、資料活用能力の向上を図ることができるように工夫されている。

活字の大きさが適切で、ユニバーサルデザインフォントを用いている。図やグラフもより多くの人が見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れている。

次に、C者である。目次に続き、「この教科書の使い方と学び方」が掲載されている。導入部、展開部、終結部の構造化した配列で構成され、学習の流れが捉えやすくなるように配慮されている。

各編や章の導入部には小学校での内容を振り返るページがあり、小・中学校の学習を円滑に接続できるように工夫されている。

世界では州、日本では地方ごとに構成されており、それぞれの終結部には多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設けて、思考力、判断力、表現力等が養われる内容になっている。

「もっと地理」のコーナーでは、「震災から命を守る」、「日本のエネルギーのあらまし」等、現代的な諸課題の解決に主体的に取り組む課題が示されており、学習内容を身近に感じ、深めることができるように配慮されている。

単元ごとに説明、要約等で学習内容をまとめる「チェック&トライ」が設定されており、基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得できるように工夫されている。

生徒がつまづきやすい事項を補足する「用語解説」や、地理学習に必要な技能を紹介し、活用する「スキル・アップ」を設けることで、発達の段階に応じて定着するように工夫されていると思う。

「分野関連マーク」「教科関連マーク」が掲載され、他分野や他教科とつなげて学びを深めることができるように配慮されている。

視覚的効果が高い幅広の判型を用い、資料を豊富に掲載し、写真や文字の鮮明さに留意し、見やすい印象的な紙面構成になるように工夫されている。

次に、D者である。初めに、「この教科書の学習のしかた」、続いて「地理的な見方・考え方について」、「地理的分野の学習の全体像を見通そう」を掲載し、生徒に分かりやすく地理的な見方・考え方を働かせて課題を追究するための視点を明記するとともに、図版や本文の配置が工夫されており、見通しを持った学習がしやすいように配慮



されている。

見開きページの右下に、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いかけがあり、思考力、判断力、表現力等を育成する深い学びができるように工夫されている。

SDGsの目標が理解しやすいように、SDGsの実現に向けた多彩な資料が掲載されており、生徒の防災、環境、共生への意識が高まり、能動的に行動するための見識を広めるように工夫されているとともに、総合的な学習の時間や他教科との関連も図られるようにも配慮されている。

題材ごとの「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」では、段階的に基本的な学習内容をつかみやすくし、節の問いに向けて見通し・振り返り学習がしやすくなるように配慮されている。

「技能をみがく」のコーナーが豊富にあり、グラフのつくり方や、地形図の使い方、ハザードマップの読み取り方等、生徒が段階的に資料を読み取る技能を習得できるように工夫されている。

写真や主題図の読み取り方、技能を習得するテーマが掲載され、段階的に深い問いが設定されることにより、地理的な見方・考え方を育む工夫がなされている。

図版の配色の工夫や本文のフォント等、ユニバーサルデザイン化を図るとともに、グラフの線種を変えるなど、生徒にとって見やすい表現になっている。

教 育 長 各発行者の特長についてご意見をいただいた。各委員それぞれ推薦する発行者を3者挙げていただきたい。

吉 田 委 員 B者、C者、D者である。

花 輪 委 員 A者、C者、D者である。

阿子島 委 員 B者、C者、D者である。

中 村 委 員 A者、C者、D者である。

里 村 委 員 C者、D者の2者で、もう1者はパスさせていただく。

教 育 長 推薦する3者をご発言いただいたが、A者が2、B者が2、C者が5、D者が5という結果である。

改めて推薦する3者へのご意見や質問等があったらお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、続いて、1者に絞り込みをしていきたいと思う。

委員よりそれぞれご意見をいただきたい。

里 村 委 員 次の3つの点で比較した。1つは、日本の領土に関する件である。具体的な視点で比較することはふさわしくないのかもしれないが、現代社会において大事な問題であり、その扱いが4者で異なるためである。2つ目は、海外での国境の取り扱いである。世界中で国境での紛争があるためである。3つ目は、我々の東北地方の取り扱いである。この3点から比較をすると、D者を推薦したい。

阿子島 委 員 私も先ほど申し上げた3者は、どれもすばらしい教科書であると思うが、中でもコラムや特設ページにおいて、色々な実社会の方のお話や情報をたくさん載せているD者を推薦したい。

花 輪 委 員 3者推薦したが、やはりC者とD者が少し抜きこんでいると思った。C者とD者見る角度によって良い点が異なる。今回から初めて取り上げられるSDGsは、国連が決めた目標として、世界中で研究されるテーマであるが、D者は、SDGsについて25のコラムを準備するなど、その取組について随所に示しており、非常に良いと感じ

た。

また、コラムは主体的な学びに主眼を置いた本文となつているとともに、対話的で学びを深めさせようという、このコラムを設けた目的が明快である点も良いと感じた。そういった観点からD者を選ばせていただく。

中 村 委 員 花輪委員と同様に、私もこれから生徒たちがしっかり学んでいくであろうSDGsについて、コラムを設け、自然に興味を持つような工夫がなされている発行者はD者であると思うので、D者を推薦したい。

吉 田 委 員 C者とD者、それぞれに良さがある。世界、それから日本各地の気候や風土というものを紹介している写真の在り方を比較してみると、その的確性がD者にあるように思えた。子どもたちの学習の興味・関心という観点から、D者を推薦したい。

教 育 長 D者を選ぶ意見が一番多く、総合的な観点からD者が採択の候補と思われるが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、地理については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として事務局に整理してもらい、7月29日に最終的に決定したいと思う。

次に、地図についての協議を行う。

事務局から学習指導要領の目標等について説明を願いたい。

指 導 主 事 中学校地図では、目標、改訂の趣旨ともに社会科地理的分野と同様である。

新しい学習指導要領において、地図の扱いに関して示されている配慮する事項としては、地理的分野を中心に地図を十分に活用することと記されている。また、地図帳には一般図や主題図、統計や写真等、たくさんの地理情報があるため、それらを十分に活用し、地理学習を一層充実させること等も示されている。

協議会において、取りまとめた中学校地図の全発行者の特長は、別添2の13ページに示してある。

主な特長について、まず、A者は、歴史的分野、公民的分野に加え、環境や防災、人権等、総合的な学習の時間にも資料として活用できるように工夫されているということである。

次に、B者は、防災に関する資料が日本の7地方全てに記載されており、防災に関する学習が深められるように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について何かご質問があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、ここからはA者とB者の特長について、各委員よりご発言をいただきたい。

里 村 委 員 まず、A者であるが、社会科歴史的分野、公民的分野、地理的分野の3分野をサポートする地図帳との位置付けが明確になっている。いくつか例示すると、「再生可能エネルギーの導入の動き」や「国別の入国者の割合」、「石油と石炭の国別埋蔵量と算出国」、「中国の経済格差と人口増減」、「ロシアと周辺国の言語と民族」等々、地図を超えた非常に興味深い教材になっている。

続いて、B者である。B者は、全体的に単なる地図にとどまらず、課題追究に向けた多くの資料が掲載されており、各国の文化から自然災害、防災関係に至るまで広範囲の学習がやりやすくなるよう構成されている。

また、固有の領土の写真や日本の伝統文化の特設ページを設けて、我が国の自然、

歴史、文化への認識を確かなものにする配慮がなされている。

「世界の生活・文化」や「世界の環境問題」を地図と写真で示し、特に変化する日本と世界を意識した編集方針が伺える。校外学習や修学旅行でも活用できる資料を多く掲載しており、地図を超えた探究的な学習に役立つ教科書と思う。

吉田委員 この地図については、主体的な学びという観点から、読み取りやすいものか、深い学びという観点からは、知識の関連付けや情報としての資料掲載になっているかという視点で見させていただいた。

まず、A者についてである。地形を表す彩色の色合いがソフトで、地図上に示されている地名や都市名等が非常に読み取りやすいという印象を受ける。

また、世界及び日本各地区の地図に併設させて気候、産業、経済、歴史等の関係資料が掲載され、学習場面に応じた活用ができるとともに、他の分野である歴史、公民の資料としても活用できるのではないかと思われる。

さらに、資料編において、現在の状況を示しているだけでなく、道路網等の都市構造や国境、流通の変化等、国情や地域の状況等の時代の推移に合わせた変化を読み取ることができ、地誌としての学習を深めることにつながるのではないかと思う。

次に、B者である。まず、教科書サイズが大きく、地図だけでなく、資料編の各資料についても読み取りやすいという印象を受けた。

また、A者同様、世界や日本の各地域の関連資料が併設され、地理の学習のポイントとなる資料については、見る観点や読み取るための問いかけがなされていることが特長である。

さらに、資料編には、主に産業や経済、交通、資源開発、移民等、日本と他国との関係に関する資料が掲載されていることが特長である。中でも、国内の資料編で、人口密度、交通網、工業地帯、湖の透明度、震災の復興状況など、変化を示す資料の掲載を通して、考える学習の在り方への提案を感じ取ることができる。

花輪委員 教科用図書としての地図の位置付けは、地理の学習時に活用するとともに、社会科の他分野である歴史や公民、さらには理科等、他の教科を学習する際にも参考となるよう編集されていることが望ましいのではないかと思う。

A者、B者とも、この目的に沿うように編集されていると思う。A者の地図帳はA B判で、B者はA B判より縦に4センチメートルほど長いA 4判を採用している。ページ数は190ページ程度とほぼ同じである。構成も導入部の後に世界各地の地図、資料、続いて日本各地の地図、資料、最後に統計資料、あるいは索引を掲載するという同じような構成を取っている。

以下、2者に対する寸評である。

A者である。最初に、活用法が述べられた後に、SDGsが紹介され、さらに6ページにわたる現代的な課題をまとめているのは良い配慮だと思った。

また、地図をそのまま並べるだけでなく、各地域を示す幾枚かの地図の後に、その地域の基本資料、テーマ資料が1ないし3ページが挿入されている。さらに所々に昔の時代の国家間、地域間の交流等を示す歴史資料も挿入されている。

この者は特に、「歴」、あるいは「公」のマークを付けることで、歴史や公民の分野にも活用できるように工夫されている。

また、所々に生徒のキャラクターを登場させて関連する質問をさせている点や、鳥瞰図が陸地だけでなく、海底地形も示されているという点が特長である。全般的に

見ていて楽しめる地図帳になっている。

B者である。A者と比較すると、大判なので、図版が大きく見やすく、余裕のある配置になっている。

この者も「世界の環境問題」や「世界の生活・文化」を冒頭に示すとともに、地図を羅列するだけでなく、各地域に関連するグラフ、資料を掲載したり、過去の国家間、地域間の交流を示す資料を挿入したりして、教科書との対応付けに工夫が見られる。

また、「地図帳の使い方」のガイドから、地図そのものを正しく読み取り、正しく理解した上で活用することを提案しているように思った。

鳥瞰図には、その地域の文化や特産、産業を表すイラストが示され、海の地形図は入っていない点が他者と比較して面白いと感じた。B者の地図帳も見るだけで楽しめるような良い地図帳になっている。

阿子島 委員 どちらの地図帳も写真が豊富であり、見ていてとても楽しい地図帳だった。

では、A者から申し上げる。

初めに、「この地図帳の活用方法」が掲載されていて、地理的分野だけではなく、歴史的分野、公民的分野でも活用できるよう、地図帳による学びのサポートの説明がなされている。

現代的な諸課題の理解を深められるように、図や写真等が掲載されており、生徒が理解しやすいように配慮されている。

地理的分野の教科書の構成に沿った配列で、世界全体は各州、日本全体は各地域の基本資料とテーマ資料で構成されており、いずれも学習場面に応じた資料の活用により、学習効果が高まるよう配慮されている。

地形の特色が捉えやすく、資料索引も探しやすくなるよう工夫されており、生徒にとって読みやすく、活用しやすい図書であり、主体的な学びができるように配慮されている。

環境、資源、エネルギー、防災等を視点とした他教科や総合的な学習の時間との関連を図りやすい資料が豊富に掲載されており、巻末には「都道府県の産品と名所・お国自慢など」の一覧表もある。視覚的な効果が高く、幅広の判型を用い、資料を豊富に掲載するとともに、写真や文字の鮮明さに留意し、見やすく、印象的な紙面構成となるように工夫されている。

次に、B者である。初めに、「地図帳の使い方」が掲載され、地図帳を活用するための方法が具体的に示されており、読み取る力を身に付けられるように工夫されている。

地理的な見方、考え方を働かせて課題を追究するための幅広い情報が掲載されており、変化や関連性の視点、技能が空間認識を伴って身に付くように工夫されている。

「世界の生活・文化」や「世界の環境問題」を地図と写真で掲載し、環境問題に対する生徒の関心を高められるように工夫されている。

資料図が同縮尺にまとめられるなど、知識、技能を習得・活用し、思考力や判断力、表現力等を駆使しながら課題を解決するという学習過程を経るような工夫がなされている。

世界は州別、日本は地方ごとに構成され、地域の特色が適切に理解できるように多面的・多角的な資料が選定されており、幅広い学習に対応できるような印象を受けた。

伝統文化や自然環境、「防災」マークが付いた資料図が多数掲載されているとともに

に、また、復旧・復興の視点も取り上げられるなど、他教科の学習にも活用できるように配慮されている。

「地図活用」を随所に設けることで、学習に対して主体的に取り組むことができるように配慮されている。

生徒の興味・関心を高め、地域の姿をより具体的にイメージできるような鳥瞰図が世界各州に掲載されており、地図に親しみやすいように配慮されている。

ユニバーサルデザインのフォントやカラーを取り入れるとともに、A4判に大型化することで、誰にでも見やすくなるように配慮されている。

中 村 委 員 どちらの者も資料や写真が豊富で、楽しく拝見させていただいた。

まず、A者である。学習内容に応じた写真や資料が多く掲載されており、生徒の発達の段階に応じた興味・関心が高まるように工夫されていると思った。

今日的な課題である環境、防災、人権、文化等が掲載されており、歴史、公民だけでなく、他教科にも資料として活用できるようになっている。

日本で起こりやすい公害や災害についての資料が掲載されており、防災・安全の意識を高められるような工夫がなされている。

また、巻頭にSDGsが配され、その後に今日的な課題を掲載するという形を取っている点も関連性があると思った。

ユニバーサルカラーやフォントを採用しており、誰もが見やすいような体裁になっている。

B者である。地理的な見方や考え方を通して、主体的に学ぶことができる「地図活用」を随所に配することで、情報を適切に読み取る力を育成し、深い学びにつなげられるよう工夫されている。

地理的分野だけでなく、幅広く他教科にも活用できる資料が多く掲載されており、生徒が主体的に探究的な学習ができるように工夫されている。

文章や数字だけでなく、写真、イラスト、吹き出し等を豊富にそろえ、生徒が興味・関心を持って学習できるようになっている。

また、日本の7地方全てに、その地方の防災に関する資料が掲載されており、防災に関する学習意識が高められるように配慮されている。

さらに、ユニバーサルデザインカラーやフォントを取り入れるとともに、A4判で大きくなっていることで、誰でも見やすいように配慮されているところが良いと感じた。

教 育 長 委員から2者の特長についてご発言いただいたが、何かご質問やご意見があればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、1者に決めていきたい。どなたでも結構なので、2者の特長や良い点についてご意見をいただければと思う。

里 村 委 員 B者を推したいと思っている具体的な理由を挙げる。1つはヨーロッパをバルカン半島、すなわちトルコから見ている地図が掲載されていることである。もう1つは、31ページの中国から日本海を経て日本を見ている地図が掲載されていることである。引っくり返してみるとよく目にする地図なのだが、これらは新鮮なアプローチである。物事を引っくり返してみると全然違って見えるということ、地図から生徒に学ばせようという発想が、B者を選んだ具体的な理由である。

教 育 長 バルカン半島のページについて、もう少し詳しく説明いただきたい。  
里 村 委 員 50 ページをご覧いただきたい。他の地図では、地中海から黒海の方にかけて削られていることが多いが、B者の地図にはトルコやアフリカから見た景色が載っており、地図を多角的に見ることで、見える景色が異なるということを伝えたいのではないかと印象を持ったということである。

教 育 長 B者を推す意見をいただいた。他の委員からの意見もお願いしたい。  
中 村 委 員 私もB者を推薦したいと思う。掲載されている資料はどちらも甲乙付け難く、それぞれに良いところがある。私がB者で良いと思う点は、地図の横に資料のページがあり、地域の特産物や普通の地図では分かりづらい地形が、とても分かりやすく示されているところである。地図帳から各地域の地理的な問題や産業などにもつながり、広い知識を得ることができるのではないと思うので、B者を推薦したい。

花 輪 委 員 私もB者を推したい。理由の1つは、大きいという点である。A B判とA 4判は縦の長さが異なるので、総計すると、紙の面積が相当違うはずである。見ていて、大きい方が良いと感じた。

2点目は、個人的な意見だが、この者の緑の色合いが好みだからである。

吉 田 委 員 主観的だが、やはりB者のモスグリーンの方が目に優しい印象で、書いてある印字も見やすい。また、一般的な地図の後に鳥瞰図が示されており、地域のことをもっと知りたいと思わせるような生徒への誘いが見られるとともに、大きく見やすいということが、B者の大きな特長であり、B者を推薦したいと思う。

阿子島 委 員 私もB者を推薦したいと思う。大きくて見やすいことに加え、例えば 60 ページのアメリカのページでは、日本はこんなに小さかったのかと、日本の小ささに驚かされるなど、色々と楽しい発見ができるのではないかと感じたためである。

教 育 長 委員からのご意見を踏まえ、地図についてはB者を採択の候補とすることによろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、いただいた意見を採択理由として事務局に整理してもらい、7月29日の定例教育委員会で最終的に決定したい。  
ここで一旦休憩とさせていただきます。

(休憩 午後3時12分～午後3時31分)

教 育 長 それでは協議を再開する。  
歴史についての協議である。事務局から学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

指 導 主 事 中学校社会歴史について説明する。  
中学校社会歴史では、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きること、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指し、「(1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」、「(2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統や文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代と

のつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」、「(3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、社会歴史的分野に関して、小学校との接続はもちろん、高等学校歴史科との接続を踏まえ、我が国の歴史的事象に間接的に影響を与えた世界の歴史の学習についても充実させるとともに、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどの動きを取り上げるといった趣旨で内容が改訂された。

内容については、考察する力や説明する力の育成のために、まとめとしての学習を行うこと、学習の構造化とねらいを明確にすることで、歴史に関わる諸事象の精選を図ること、我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いを充実すること、主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりについての学習の充実を図ること、様々な伝統や文化の学習内容を充実させること、などのように取り扱い等が変化している。

協議会において、取りまとめた中学校社会「歴史」の全発行者の特長は、別添2の14ページから15ページにお示ししている。

主な特長については、まず、A者は、豊富に掲載されている美術品や史跡等の写真資料を活用した読み取りの発問が設定されており、生徒の主体的な学習につながるように工夫されているということである。

次に、B者は、震災、令和の年号等、現代に関するページが充実しており、歴史が繋がっていることを認識させることで、主体的な学びにつながるように配慮されているということである。

次に、C者は、歴史上の様々な分野や階層の人物を取り上げており、生徒が興味を持ち、学習を深められるように工夫されているということである。

次に、D者は、問いを軸にした単元構成になっており、下段の「チェック&トライ」の問い等で、主体的な学習態度、思考ツールの活用を通して思考力、判断力、表現力等の育成につながるように配慮されているということである。

次に、E者は、学習の見通しが持てるように課題や資料を配列し、「読み解こう」等の資料の読み解きを支援するコーナーを多数設けることで、資料活用の技能が育まれるように配慮されているということである。

次に、F者は、「チャレンジ歴史」等の資料の読み取りから、グループ等での対話や言語活動につながるように学習の流れが工夫されているということである。

次に、G者は、「タイムトラベル」にその時代の生活の様子を示すことで、時代のイメージがしやすくとともに、生徒の興味・関心を引き出し、想像力を働かせながら学習を進められるように配慮がなされているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について何かご質問等あればお願いします。

里 村 委 員 中学校の教科書では、発行者によって日本史と世界史にはっきりとした境界がない

ものと、両者にある程度の境界を設けて編集しているものがあるが、この違いをどのように考えたらよいか。学習指導要領での取扱いについて伺いたい。

端的に言うと、中学校の歴史においては、日本の歴史が中心であるのか、世界史と日本史双方を均等に学ばせるべきものなのかを確認したい。

指導主事 学習指導要領では、歴史的分野の改訂の要点として、「我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」と記載されている。あくまでも日本の歴史の理解を深めるための背景としての世界の動きの学習と書いてある。

教育長 他にご質問はないか。

(質疑なし)

教育長 それでは、各発行者の教科書見本本に委員の皆様方からご意見をいただきたい。

吉田委員 歴史も、他の教科と同様の観点で見させていただいた。

まずA者である。A者は、各章の扉の部分で、その章の全体の学習内容が見渡せるように、中央に日本とその他の国の年表があり、その時々の歴史的事象を絵図や写真で示し、学習への興味を喚起することや見通しを持たせることに配慮している。

また、1単位時間ごとに冒頭における問いかけも学びへの指針となっている。

学習の振り返りについては、章ごとにワークシート方式で学習をまとめさせているとともに、学びを深めることについては、1単位時間ごとに学習した知識を統合し、その時代の状況を探究するよう提案していることが、この者の特長である。

その他、多くの歴史上の人物を取り扱っていることも特長である。

次に、B者である。まず、各章の扉の部分に、この時代を象徴する人物がイラストで表され、歴史の流れを俯瞰できる編集をしている。このことは、生徒に興味・関心を持たせると同時に、章全体に対する学習の見通しを持たせるという点で効果的である。

また、1単位時間ごとの学習課題もタイトルの隣に位置付け、生徒に認識させるレイアウトになっている。

さらに、学習の振り返りについても、授業の終わりに学習課題に呼応した内容で説明させたり、ノートにまとめさせたりする提案をしている点や、章ごとのまとめにおいては、歴史的事項や人物を中心に振り返りをさせている点などの特長がある。

各章に様々な観点からコラムを設定し、生徒に歴史認識を深めようとする意図も伺える。

そのほかとして、B者も多くの歴史上の人物を取り扱っている点が特長である。

続いて、C者である。本文が読み物風に編集され、意識を歴史の流れに向かわせ、生徒たちの興味を高めることができるよう工夫されている。

また、学習内容が見通せるようなタイトルの在り方にも工夫を感じる。

振り返りについては、章ごとにゲームや推理する活動を導入したり、絵図のある部分を拡大して状況を推測させたりするなどの工夫に特長を感じる。

その他、歴史上の変化を政治だけでなく、様々な階層の人々の生活からも見ており、歴史を多面的に捉える編集となっている。

次に、D者である。各章の扉に絵図やイラストを掲載し、キャラクターの発言と結び付けることにより学習の意欲付けを図っている。

また、章の学習を通じた探究課題を記し、章全体を見通した学習を促すとともに、各単位時間においてもテーマの脇に学習課題を設定し、生徒の意識を向けさせながら



学習に臨めるよう工夫されている。

振り返りについては、1単位時間ごとに本時で学んだ歴史的事象を確認させながら、当時の社会事象を探究させるために、字数を制限してまとめさせるなど、思考力、表現力を高めながら、学習の定着を図ろうという工夫が見られる。

さらに、学習のまとめにおけるシンキングツールの提示は、思考を整理し、学びを深めることに結び付けている。

次に、E者である。学ぶことへの興味・関心については、各章の扉に絵図を掲載し、キャラクターのつぶやきを基に、当時の様子を想像させることを通して学習への動機付けを図っている。

見通しという点では、タイトルに隣接させて年表を掲載し、本時の学習の位置付けを明示するとともに、サブタイトルにより学習内容を示唆したり、学習課題の併記により、1時間の学習の見通しを明らかにする編集の意図が感じられる。

学習の振り返りについては、各時間の学習内容の事項を確認するとともに、その時代の状況を異なった視点から推察する手立てを講じている。

また、各時代の学習の中で、特設コーナーを設け、視点を変えてその時代を捉え直す働きかけもあり、深い学びへと結び付けている。

F者である。章の初めの絵図やイラストの大きさが生徒たちにインパクトを与え、描き表されている内容が確かに見て取ることができるようになっている。各時代の学習に対する関心も高めることが期待できる。

学習への見通しについては、1単位時間ごとの学習課題が設定されているとともに、インデックスともなる年表により、位置付けを明らかにして学習に臨むことができるよう工夫されている。

学習の振り返りについては、「確認」の中で「～説明しましょう」と表現活動に関わらせた問いかけがなされ、思考活動を高める内容になっている。

また、章ごとのまとめにおいても、細部にわたり振り返りの手立てが講じられている。

あわせて、各所に特設された各種のコラムを通した学習が、生徒たちの歴史に対する学びを深いものへと結び付けている。

最後に、G者である。初めに、歴史学習に関するオリエンテーションに当たる部分において、6ページにわたり支倉常長についての調べ学習の事例が紹介されていることは、生徒に歴史学習に対する関心を大いに高めるものと思われる。

また、章の初めに掲載された各時代を代表するような一場面を、克明で凝縮されたイラストにより紹介していることは、生徒たちの関心を高めるものである。

学習の見通しについては、タイトルと連動させて課題が併記され、1単位時間の学習の流れをつかむことができるとともに、インデックスとしての役割も果たす年表の掲載は時代の位置付けに役立つものである。

振り返りについても、各時間2つの観点から、学習事項の確認と生徒の思考力を高める内容で構成されている。

そのほか、深い学びに関しては、各所に様々なデータや事象から当時の社会的な動きについて考察させる手立てを講じていることも特長である。

花 輪 委 員 日本と世界が経てきた過去の歴史的事象とその背景を理解することで、現代の日本や世界が抱えている課題について解決を構想する力を醸成することが、この歴史とい

う教科の目的だと理解した。

今回、歴史については7者から提案があったが、いずれの者も上記の目的を達成するように工夫されている教科書である。

まず、教科書の外形的なことだが、1者を除く6者がA B判を採用している。1者は縦が4センチメートルほど長いA 4判である。ページ数は、多い者で317ページ、少ない者で292ページであるので、差はほとんどないと言ってよい。

教科書の構成は、章立ての細部は異なるものの、各者ともほぼ同じである。導入の章を除くと6章構成となっており、古代、中世、近世の3つの章で、江戸時代の終わりまでをカバーしている。その後の時代を近代、2つの戦争の時代、戦後の3つの章で構成している。

私が興味深かった点は、最初の3つの章において、例えば「近世の日本」といった日本中心の名称を付けた者がA者、B者、D者、「近世の日本と世界」のように世界も意識して付けた者が、E者、F者、G者とそれぞれ3者ずつとなっている点である。内容に大きな違いがあるわけではないが、者による姿勢の違いが表れていると思った。

以下、各者に対する寸評である。

A者である。導入の章では、身近な歴史を調べることを推奨し、レポートの作成と発表を促している。前半の3章は、日本史中心であるように思える。本文とは別にアクティブ・ラーニングを求める「歴史を考えよう」が7項目、同じく「地域からのアプローチ」が7項目、Q&Aタイプの「歴史へのアプローチ」が10項目挿入されており、多方面からもの見方が提示されている。

絵や写真などの資料が多数掲載されている点が特長である。

次に、B者である。導入部では、「歴史人物Q&Aカード」を作ることや、大阪を例に、地域の調査をすることを推奨している。前半の3つの章は、日本史と日本から見た世界の状況に焦点が置かれている。

歴史的事象の記述では、人物の果たした役割に重点を置いて記述している点が特長である。実際、コラムでも「人物クローズアップ」を設け、15名の歴史上の人物を取り上げている。また、視点を日本の歴史に捉えた記述が多いことや、生徒のキャラクターに発問させている点も特長と言える。

次に、C者である。この者のみがA 4判と大きな判を採用している。

章立ては6部、10章構成で、古代、近世、そして近代のところを2章に分けて記述している。前半は、日本史中心の記述になっている。

この者のユニークなところは、近世の第5章に、「百姓と町人の世」の章を設けていることである。いわゆる歴史的事象だけではなく、一般庶民の生活も歴史を考える場合に重要であると主張しているのだと捉えられる。

各章の扉には導入部を、各章の終わりには振り返りのコーナーを設けるとともに、「歴史を体験する」のコーナーで、アクティブ・ラーニングを促す問いかけがなされている。

総じて、追加の補助資料は抑制気味で、本文の記述を重視したシンプルでストレートな教科書との印象を持った。

D者である。この者は、構成も章の題名もオーソドックスだが、江戸時代までを担う前半でも、各章の中に世界の状況を述べる節が準備されており、特に日本史中心との印象は持たなかった。

この者は、各章の初めに「導入の活動」を置き、章の終わりには「基礎・基本のまとめ」や「まとめの活動」を置いて、学んだことを確認させている点が特長である。また、所々に「資料から発見！」や「もっと歴史」のコーナーを設けて学んだことを深めたり、違った視点で理解したりすることの大切さを示している。

さらに、歴史上の人物に焦点を置くのではなく、時代の状況や時代が変わらざるを得なかった背景等に焦点を当てて記述している教科書であるという印象を持った。

なお、キャラクターは、章の導入部やまとめの場面といったアクティブ・ラーニングの場面では出てくるが、中心となる各項目には登場しないという抑制された使い方がなされている。

E者である。章立ては他者と同じである。また、この者以降、章の名称に「世界」というキーワードが入るようになるが、内容自体は日本史中心で、世界史の多くは日本との関連で取り上げられている。

この者独自の工夫点として、各項目の表題の上部に世紀の目盛りと日本史の時代区分の目盛りを示すことで、各項目が、どの世紀で、日本の何時代の出来事であるのかを一目で分かるように編集されていることである。

その他のところでも、時代を示す目盛りが多く掲載されている。また、巻末に綴じ込まれている「歴史年表」も充実しており、歴史の流れを重視して理解させようとしていることが感じ取れる。

次に、F者である。この者の構成は、導入の後、編と呼ばれる5つの区分で学び、最後に、『歴史との対話』を未来に活かす」との章を設けている。第5編、「近代の日本と世界」は、「日本の近代化」と「二度の世界大戦と日本」の2章立てとなっている。

この者は、多くのカテゴリーの補助教材を多数配置し、深い学びに導くようにしている点が特長である。

項目を挙げると、「チャレンジ歴史」、「アクティビティ」、「スキルUP」等でアクティブ・ラーニングを推奨し、コラム「先人に学ぶ」、「女性史コラム」、「地域に学ぶ」では、関連する情報を記述し、歴史への興味を駆り立てるようにしている。

内容では、時代ごとの人々の暮らしの記述を重要視している教科書だと思った。

G者である。導入部である第1部と6つの章からなる第2部に分かれたオーソドックスな章立てである。この者の導入部の後半、第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」は、地図を描くこと、年表を作ること、レポートを書くことを丁寧に説明しており、大変良い導入ではないかと思う。

この者は、各章で世界の状況を示した上で、日本の状況を説明するという流れを取っている点や、各時代の文化を重視して取り上げている点が特長である。

また、社会の他分野と同じように、主体的な学びのための部分に加え、対話的な学び、深い学びのために多くの補助資料を掲載している点も特長である。中でもタイムマシンで、その時代の生活をしている人々を眺めるという「タイムトラベル」が11項目あり、これは大変面白いアイデアだと思った。

阿子島 委員 まず、A者から申し上げる。第1章「歴史との対話」では、「私たちの歴史」と「身近な地域を調べよう」が掲載され、歴史学習の導入として学習の進め方を詳しく説明するとともに、イラストを適宜使うことで生徒が理解しやすい内容となっている。

各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介するページが設けられ、広い視野で日

本と世界の関係について考えられるように工夫されている。

各章の初めに、日本史と世界史に関する写真を上下に分けて時代順に示し、視覚的に流れをつかませる工夫がなされている。

各章の「まとめ」では、歴史の流れの因果関係などに着目させたり、比較させたりする発問があり、各時代の流れや特色を確認することができるように工夫されている。

「歴史へのアプローチ」では、グローバルな視点で見たテーマ、ポイントを絞ったテーマと歴史的事象を多面的・多角的に考察するように工夫されている。

「地域からのアプローチ」では、各地域の歴史について、時代の展開や文化財保護の取組等を理解させることで、歴史を学ぶ現代的な意味を考えさせるように工夫されている。

生徒にとって意味の分かりにくい用語に関しては、同じページに詳しく解説が付いており、その都度理解できるように工夫されている点が良いと思う。

「歴史を考えよう」では、生徒の興味・関心を高める資料を基に思考力、判断力、表現力等を高める問いが付けられ、主体的・対話的で深い学びを実現するように工夫されている。

図版が大きく、バランス良く配置されており、生徒に考えさせたいところは発問を提示したり、どこに着目すべきかの示唆を与えたりする工夫がなされている。

次に、B者である。巻頭に、「日本人の誕生物語」を、続いて「日本の美の形」が掲載されており、我が国の伝統文化並びに現在に伝わる文化遺産を多彩な資料とコラムで取り上げている。その後、「この教科書の使い方」が掲載されている。

歴史的事象に対する関心を高め、資料等を活用して多面的・多角的に考察する力を養うように配慮されている。

我が国の歴史については、系統的に配列されており、大きな流れが捉えやすくなるように配慮されている。

各章の終わりに、「学習のまとめ」が設けられ、その時代の歴史を体感し、表現する活動を通して、確かな理解と定着が図られるように配慮されている。

各章にある『私の歴史博物館』をデザインしてみようは、生徒の歴史に対する関心を喚起させるもので面白いと感じた。

また、「なでしこ日本史」等、その時代を切り開いた女性に焦点を当てることで、人権を尊重する心が育つように配慮されている点も特長である。

「歴史のターニングポイント」では、各時代の共通点や相違点に着目しながら、言葉や図で表す課題があり、言語活動が充実するように配慮されている。

「歴史ビュー」「歴史ズームイン」等のコラムでは、豊富な資料から思考し、判断できるように工夫されている。

挿絵や写真、図表等が時代の特色に応じて適切に掲載されており、イラストや図版が多様で、生徒が親しみを感じながら学習に取り組めるように配慮されている。

次に、C者である。初めに、「この教科書の使い方」が掲載されている。世界の歴史を背景に、日本の歴史を大きく理解させるとともに、資料からまとめる技能を身に付けさせる等、多面的・多角的な考察を深め、様々な表現となるように配慮されている。

学習内容を振り返りながら、学び方、まとめ方を身に付けられるよう工夫されている。

また、学習内容の構造化と焦点化を重視して、各テーマが設定されており、歴史の

具体的場面や時代を生きる人たちの姿を捉えながら、学習内容の充実が図られるような工夫もされている。

歴史の大きな流れが理解できるように、本編が113のテーマに配列されているとともに、世界史教材を多用し、近現代史の学習の充実を目指した内容が工夫されている。

見開き2ページの左上に大きな図版が配置されたり、毎時間の導入として資料の読み取りができるように工夫されている。

地域の遺跡や文化財、先人の功績を取り上げたり、地域の博物館学習を設定したりするなど、身近な地域の学習が行えるように配慮されている。

時代区分欄に「北海道など」「本州など」「沖縄など」の欄を設けることで、各地の出来事がより多くの生徒に分かりやすく捉えられるように配慮がされている。

「歴史を体験する」では、調べ学習、聞き取りやまとめ方、討論の方法等の学習の仕方が紹介されており、総合的な学習の時間との関連に配慮されている。

A4判で大きく、豊富な資料と本文記述を盛り込めるようになっており、見やすく印象的な紙面作りに工夫が伺える。

次に、D者である。初めに、「日本の国宝・重要文化財」、「持続可能な社会の実現に向けて」、「この教科書の使い方と学び方」が掲載されている。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる学習課題を設定し、知識・技能の定着、思考力、判断力、表現力等の育成を目指す内容となっている。

各章の導入では、小学校で学習した人物や文化財、資料等をマーク等で示し、系統的に学習を展開できるように配慮するとともに、小学校の学習を振り返る活動を設けることで、中学校での学習へスムーズに移行できるように配慮されている。

単元構成が学習への興味・関心を高める導入部、学習を進める展開部、学習をまとめる終結部の順に構造化されており、学習の流れを捉えやすくする工夫がなされている。

身近な地域の歴史を調べる学習の事例を各時代に設けることで、郷土の歴史に目を向け、郷土を愛する心を育成することができるよう配慮されていると感じた。

単元の導入段階で、単元全体を貫く探究課題を設定し、探究課題を解決するためのヒントを提示したり、見方・考え方や着目点等の提示、協働的な学習の場である「みんなでチャレンジ」等、深い学びにつながる学習場面の設定の工夫がなされている。

1単位時間の学習を解決する「チェック&トライ」で、基礎的・基本的な内容を生かしながら思考力、判断力、表現力等を養えるように配慮されている。

また、他教科でも取り扱う内容には、「教科関連マーク」を明示し、くらげチャートやXYZチャート等の思考ツールも紹介されるなど、工夫がなされている。

資料掲載部分の背景に着色を施し、本文と資料との区別を明確にしたり、凸凹のないフラットなデザインを採用したりするなどの工夫がなされている。

次に、E者である。巻頭に、「私たちのつながる歴史」「歴史の学習を始めよう」「教科書の使い方」が掲載されている。

第1章では、小学校で学んだ歴史上の人物や文化遺産等を振り返る作業が位置付けられており、生徒が楽しみながら歴史学習を進めていくきっかけとなるように工夫されている。

1単位時間で見開き2ページごとに「学習課題?」と、「確認!」「表現!」を設け、生徒の主体的な学習や内容の理解を促す配慮がなされている。

学習コラム「歴史の窓」や特設ページを充実させ、資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、根拠を持って学習課題を考察することができるように配慮されている。

時代ごとに郷土の伝統文化への関心を高めるテーマを紹介したり、地域調査の手法については、「地域の寺社を訪ねて」や「明治期の面影を訪ねて」、「歴史の窓」で詳しく紹介したりしている。

学習課題に応じた「確認！」と「表現！」という2段階の問いで、本時の学習を振り返り、基礎・基本の定着を目指し、発展的な学習が展開できるように配慮されている。

「学習のまとめと表現」では、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明する活動が設定され、言語活動が充実するように配慮されている。

時代ごとにページが色分けされており、視覚的に時代区分が捉えやすくなるように配慮されている。カラーユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトや配色、書体等の表現が工夫されている。

次に、F者である。初めに、「探してみよう！私たちと歴史とのつながり」「歴史を学ぶに当たって」「教科書の構成と使い方」が掲載されている。

第1編では、小学校で学習した人物と文化遺産等の内容を振り返り、その後、地理的分野、公民的分野と関連させながら学べるように、発達の段階に応じて意欲的に学習できるように工夫されている。

導入単元の第1編、各時代の特色を学ぶ、第2編から第6編、未来を創造する学習の順番で構成され、歴史の大きな流れを理解し、未来を考えることができるように配慮されている。

本文、図版では、平易な表現を用いて生徒の読み取りを支援し、生徒の思考に沿って基礎的・基本的な内容の確実な定着と、発展的な学習を進めるための配慮がなされている。

時代ごとに史跡、文化財、人物を紹介しており、生徒が歴史を身近に感じながら地域の歴史を調べる手順を学ぶ「でかけよう！地域調べ」では、総合的な学習の時間との関連が図られるように配慮されている。

「チャレンジ歴史」等のページを設け、歴史について自分で考えたり、対話したりして、歴史を学ぶ面白さを体験し、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されている。

歴史の学習の最後に、『歴史との対話』を未来に活かす」ページが設けられ、生徒一人一人が歴史的事象に興味・関心を持ち、知識だけではなく、技能の習得にも配慮していくことができるような課題として、「災害の歴史に学ぶ」等が掲載されている。

イラストや図版が鮮明で、生徒の興味・関心を高める配慮がなされており、大判ページで絵画資料を読み取る楽しさを実感できるように工夫されている。

次に、G者である。目次に続き、「この教科書の学習のしかた」が丁寧に説明されている。歴史学習の基礎的・基本的な技能を習得させるため、「技能をみがく」や資料活用を問う設問が各所に設けられており、多面的・多角的に分析する力が養えるように工夫されている。

歴史を創ってきた人々の姿に焦点を当て、その苦労や努力について気付かせ、学習意欲を高めながら、我が国の歴史に対する理解を深めることができるように工夫されている。

コラム「未来に向けて 環境」では、自然災害に立ち向かった人々の姿が紹介されており、防災についての意識が高まるように工夫されている。

我が国の歴史について、系統的に配列されており、各時代を比較したり、疑問点を発見したりしながら、歴史の大きな流れを把握できるように配列されている。仙台の歴史を事例とした調べ学習が提示され、身近な地域への興味・関心が高まるように配慮されている点は、生徒の印象にも残ると感じた。

見開きページの末尾に、「確認しよう」「説明しよう」の欄を設け、生徒自身が興味を持ちながら対話的な学びを実践したり、振り返りの学習を行ったりできるように工夫されている点が良い。

各節の導入の「タイムトラベル」では、読み取り活動を行うことで学習の動機付けや方向付けができるように工夫されている。また、「技能をみがく」では、資料読解や聞き取りながらの情報収集や多面的・多角的な分析の力が養われるように工夫されている。このほか、文化史や「地域史」、「人物コラム」等、総合的な学習の時間との関連を図る工夫もなされている。

イラストや図版が多種多様で、特設ページも多く生徒が親しみや魅力を感じながら学習に取り組めるように配慮されている。

中 村 委 員 A者から申し上げる。まず、世界の事象と日本の事象がバランスよく配され、広い視野で日本と世界の関係について考えられるように工夫されている。

各時代の世界の様子を地図とイラストで紹介するページがあり、日本と世界の関係について考えられるような工夫がなされている。

「歴史へのアプローチ」では、学習内容を踏まえ、テーマを設定し、社会的事象を捉え、主体的で対話的な学習ができるように工夫されている。

また、「地域へのアプローチ」では、地域の歴史を踏まえ、その地域の課題等を様々な角度から考えられるように工夫されている。

各章の「まとめ」では、自分の考えを自分の言葉でまとめられるような発問が設けられており、主体的な学習ができるようになっている。

「歴史を考えよう」という特設ページでは、学習内容に沿った課題を考え、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

B者である。中世、近世、近代などの時代全体を歴史絵巻として掲載されている「鳥の目で見ると」では、大きな流れが分かりやすくつかめるような工夫がなされている。

同様に、各章の初めに、「虫の目で見ると」では、「何々の世界へようこそ！」という部分が設けられ、その時代の人々の暮らしに結び付けた内容が掲載され、興味・関心を持って学習に入ることができるように工夫されている。

「なでしこ日本史」や「人物クローズアップ」等で人物を取り上げ、その生き方を通し、学習内容の理解が深まるように工夫されている。

「歴史のターニングポイント」の特設ページが設けられ、各時代の大きな出来事を課題とし、主体的・対話的な学びができるように工夫されている。

また、各章の終わりに「学習のまとめ」があり、表現する活動を通して学習の理解が定着するように工夫されている。

C者である。本文が読み物ようになっており、とても興味深く一つ一つの出来事について多角的に書かれているとともに、また、タイトルが興味を引くものとなっている。

各章の振り返りと「学習のまとめ」では、生徒の知識の定着と対話的な学習を通し、思考力、判断力、表現力等を高められるように配慮されている。

「歴史を体験する」というコーナーでは、インターネットや博物館を利用した調べ学習や体験者からの聞き取りやまとめ方、討論の方法等、学習の仕方が紹介されており、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

1つの学習課題につき、見開き2ページの構成になっており、開いただけで一目できるので分かりやすい。

歴史上の様々な分野や階層の人々を取り上げ、生徒が興味・関心を持って学べるように工夫されている。

D者である。各章の導入では、小学校で学習した内容の写真やイラストを配し、同じページの年表には、その時代の政治、経済、社会、文化、東アジア、欧米等の関係が掲載され、理解しやすいものになっている。

また、「探究課題」が設定され、「探究のステップ」が示されており、生徒が見通しを持って学習することができるようになっている。

「みんなでチャレンジ」のコーナーがあり、言語活動が充実し、対話的な学びができるようになっている。

学習内容を深めたり、広めたり、違う視点で捉えられたりするようになっている「もっと歴史」では、学習内容を踏まえ、課題を主体的に考えられるようになっている。

「スキル・アップ」では、歴史の学習を進める上で基礎的・基本的な技能を身に付けられるように工夫されている。

また、ページの下部に「チェック&トライ」が設定され、習得した基礎的・基本的な知識を生かして思考力、判断力、表現力等を養えるような工夫がなされている。

E者である。「歴史にアプローチ」では、小学校の学習を振り返りながら中学校での学習にスムーズに入っていくことができるように工夫されている。

また、巻頭に「歴史すごろく」があり、小学校の学習を楽しみながら振り返ることができるようになっている。

学習コラム「歴史の窓」が豊富で、学習内容の関連情報が多く配され、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。

課題を通じて歴史学習の基本的な技能が身に付けられる「歴史の技」では、様々なものを読み解く方法が学べるように工夫されている。

身近な地域の歴史を調べるための「特設ページ」では、調査活動のヒントが示され、「歴史を探ろう」では、具体的な事例やテーマを基に学習内容を深められるように工夫されている。

F者である。歴史学習の視点を四つに分け、歴史学習を分かりやすく説明しており、中学校の学習にスムーズに入ることができるように配慮されている。

また、この四つの学習観点を学習課題とともに示し、確認できるように工夫されている。

学習内容に沿ったコラムが充実しており、文化の発展、平和に取り組んだ先人を紹介する内容や、古代から現代までの各時代の女性の姿を紹介する内容、地域から歴史を学ぶことのできる事例を紹介する内容など、生徒が興味・関心を持って学習内容を深められるように工夫されている。

「スキルUP」のコーナーでは、学習を進めるに当たり必要な技能を詳しく解説し



ており、学習の手助けとなるように配慮されている。

学習に関連した具体的な課題を自主的に調べたり、議論したりして解決する「チャレンジ歴史」では、歴史を学ぶことの面白さを体験できるように工夫されている。各編の終わりに、「学習の整理と活用」のページがあり、資料の活用を通して思考力、判断力を身に付けられるようになっている。

『歴史との対話』を未来に活かす」では、より良い未来を創るために何が大切か、現代の課題について歴史を踏まえて考えられるように工夫されている。

G者である。「技能をみがく」では、歴史の学習をする上で必要な基本的な技能を詳しく解説しており、学習の手助けとなるように配慮されている。

ページの下部に学習内容に関連した小学校の既習事項や地理的分野、公民的分野との関連が示されており、学びの継続性が分かるように工夫されている。

「章の学習を振り返ろう」のページでは、知識を定着させ、問いに対し対話的な作業を通し、自分の意見を深め、思考力、判断力、表現力等を養えるようになっている。

学習内容に関連する事柄を紹介している「歴史プラス」では、生徒が興味・関心を持って学習内容を深められるように工夫されている。

時代の生活の様子を示し、時代のイメージを持たせる「タイムトラベル」では、生徒の興味・関心を引き出すことができるように工夫されており、とても良いと思った。

また、支倉常長についての調べ学習の仕方が詳しく掲載されており、地元ゆかりのある人物が取り上げられていることで、生徒が興味・関心を持って学習できる内容になっていると思った。

里 村 委 員 まず、A者である。各章の初めに、日本史と世界史に関する写真を時代順に上下に分けて掲載されており、興味・関心を呼び起こす良い効果があると同時に、流れを視覚的に理解させるように工夫されている。また、社会や経済の仕組み等、分かりにくいと思われる学習内容を図式化して視覚的に理解させようとする工夫も見られる。

各世紀の世界の様子を地図とイラストで紹介して、日本史と世界史を関連付けて考えさせるような、ある意味で新鮮さを感じさせる構成になっている。多面的に写真や図を駆使して、生徒の興味をそらさないように工夫されている。

B者である。多くの写真とイラストを用いた人物画が掲載されており、生徒にとって親しみやすい教科書である。

キャラクターの会話で説明をしている部分が比較的多く、歴史への関心を高めることに配慮し、生徒にとって分かりやすい歴史ということを優先していることが伺える。

「なでしこ日本史」は、ユニークな取組である。その時代で活躍した女性像に焦点を当てることで、女性の活躍にも配慮した教育を目指していると感じた。

C者である。環境保全や国際社会の発展等に関する現代的な課題を提示して、課題を解決させる力を養うことを目指しているように思う。

冒頭の質問にも関係するが、日本史と世界史の境を低くして、多岐にわたる歴史教材を選択した上で、人間の歴史の教科書作りに果敢に挑戦している様子が伺える。また、争いの絶えない人間の歴史を前面に押し出した編集の意図を感じさせる。

一方で、様々な分野で階層での男女の生活が示されており、人権尊重や他人を思いやる心が育つようにも工夫されている。

D者である。全体構成が優れている。日本の歴史を学ぶ上で、バランスが取れており、記載内容がしっかりしている。現代の人権問題につながる歴史の記述が充実して

いるほか、神話やアイヌ文化等、文化史にも十分な紙面を割いている。

また、掲載している年表、系図、地図、絵、写真等は、明るくすっきりしたものが多。

歴史を学ぶ意義について、未来を考えるために歴史が必要なのだということを、「次の時代に生きる人々にバトンを受け継ぐためにも、歴史を通じて人々が生み出してきた知恵や努力に学ぶことが求められている」というシャープなメッセージにより説明している点が素晴らしい。

「現地調査をしよう」の欄を設けるなど、生徒の生活体験や興味・関心を大切にしている姿勢が感じられ、主体的・対話的な学びの実現に資する教科書である。

E者である。著作者の高い実力を感じさせる良質で内容の濃い教科書で、「歴史の窓」や「特設ページ」が充実している。

資料を活用しながら、多面的・多角的に学習課題に取り組むことができるような工夫がなされている。

調査の課題設定から、野外調査、聞き取り調査を進め、調査発表に至るプロセスを重視した教育手法を提示している。

教科書の冒頭に社会的事象の歴史的な見方・考え方の視点を働かせた学習を進められるように配慮されており、学習の充実と発展を図る工夫が十分になされている。

F者である。歴史的な事象に関する関心を高めることに留意した教科書で、資料の読み取りや意見交換等で多面的・多角的な学習が進み、対話的な学びを促すものとなっている。歴史を学ぶにあたり、対話的な学びに関する活動を重視している姿勢が伺える。

「学習課題」に対応した「確認」を設けて、基礎的・基本的な知識の着実な定着や習得した知識を活用できるように工夫されている。

全体的に分かりやすい文章表現になっているが、特に第5編の「日本の近代化」「二度の世界大戦と日本」は簡潔で分かりやすいだけでなく、内容の深い記載がなされている。

G者である。日本の歴史を学ぶ上でバランスが取れた内容となっており、記載内容にボリューム感と安定感が感じられる。

教科書本文の表現文章を他者と読み比べると、歴史的な因果関係を簡潔に説明し、流れの良い文章になっている。

導入資料や本文に加えて、教材ごとに対話的な学びのための「コラム」や、深い学びのための「特設ページ・コラム」、「地域史コラム」、「人物コラム」等々があり、随所に歴史の深い学びを引き出す工夫がなされている。

他の委員と同様に、支倉常長など、仙台の歴史に関する記載が含まれていることで、本市の生徒にとって歴史への興味・関心を身近に呼び起こすきっかけとなるのではないかと思います。

「歴史を探ろう」で、各章の学習内容を深く理解させるよう工夫されており、思考力、判断力、表現力等を、歴史を学ぶ中で養うことができると感じた。

教 育 長 各委員より発行者それぞれの特長についてご意見をいただいた。続いて、各委員より3者挙げていただき絞り込みを進めていきたい。

阿子島 委 員 A者、D者、G者である。

中 村 委 員 A者、D者、G者である。

里 村 委 員 D者、E者、G者である。

吉 田 委 員 D者、E者、G者である。

花 輪 委 員 D者、E者、G者である。

教 育 長 A者が2、D者が5、E者が3、G者が5という結果である。D者、E者、G者の3者についてご質問やご意見があればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、D者、E者、G者の3者について1者に絞り込みを行っていく。皆様方から1者それぞれご推薦いただきたい。

里 村 委 員 現在の中学校の歴史の履修の実態について伺いたい。自分が学生の頃は、時間配分の都合もあり、第2次世界大戦後のことを学ぶ時間があまりなかった。年間の時間配分も決められていると思うが、第2次世界大戦後から現代にかけての内容の履修の実態について教えていただきたい。

教 育 長 各時代の授業の時間配分に関する考え方等について事務局から説明いただきたい。  
指 導 主 事 学習指導要領の改訂に伴い、世界史の学習が重点化されたことで、歴史全体の学習時間配分が多くなっている。3年生の初めの頃まで歴史の授業が続いており、第2次世界大戦後から現代にかけての部分も含め、教科書の内容は全て履修している。

花 輪 委 員 この教科に関しては、G者が優れていると判断した。観点としていくつかあるが、1点目は、章や部の題名に、学習指導要領とは違った題名を付与するなど、非常に面白いということである。世界を意識した題名を付与することで、日本と世界の動きがすんなりと分かるようになっている。

次に2点目として、社会や文化など、歴史的な事象の背景まで、きちんと捉えている点である。たくさんの「コラム」やツールがあり、興味を持ったことについて、学びを広げる仕掛けもなされており、G者を推したいと思う。

里 村 委 員 G者とD者で非常に悩んだ。歴史の説明文について両者を比べてみると、わずかの差かもしれないが、因果関係の説明や文章の展開に関する、表現がG者の方が優れていると感じた。特に、現代に近い時代に関する章の書き方が良くできているということでG者を推したい。

中 村 委 員 私もG者を推薦したい。たくさんの「コラム」があることで、生徒が必ず歴史のどこかに興味を引かれてしまうような仕掛けがなされている。また、とても骨太で、歴史が得意ではなかった私でも、興味を持って取り組んでいけるのではないかと思わせる内容である。

吉 田 委 員 編集されている資料や本文については、大きな違いはないものの、理解しやすい表現となっているのはG者である。一方、活字や色彩に配慮されているのはD者であり、生徒にとって読み取りやすい教科書になっている。

次に、部分的なところに着目してみると、歴史というものは、西日本での出来事が中心になりがちであるが、G者は、調べ学習のうち6ページにわたり支倉常長を取り上げたり、導入部分で博物館の在り方を取り上げたりしており、生徒にとって歴史が身近なところで起きているものであることを印象付けている。これらを踏まえ、G者を推薦する。

阿子島 委 員 私も吉田委員の意見に賛成で、G者を推薦したい。仙台にゆかりのある人物を取り上げており、生徒たちに読んでほしいと思う内容である。

教 育 長 委員からいただいた意見を踏まえ、G者を採択の候補としてよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、歴史については、議論いただいた内容を採択理由として事務局に整理してもらい、7月29日に最終的に決定したい。

続いて、公民について協議を行う。

事務局から学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

指 導 主 事 中学校社会公民について説明する。

中学校社会公民では、現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するため、「(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民生活の向上と経済活動の関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会の関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」、「(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」、「(3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、社会公民的分野に関して、小学校との接続はもちろん、高等学校公民科との接続を踏まえ、防災情報の発信・活用に関する指導、情報化など知識基盤社会化による産業や社会の構造的な変化や、その中での起業に関する扱い、選挙年齢引き下げに伴う政治参加等に関する指導を充実させる趣旨で内容が改訂された。

内容については、現代社会の特色についての学習や我が国の伝統文化の継承と創造、国際社会における文化や宗教の多様性についての学習を重視すること、現代社会を考察、構想する際の基礎的な概念として対立と合意、効率と公正を取り上げ、現代社会を捉える枠組みを養う学習を充実させること、枠組みを生かしながらか見方・考え方を働かせて経済、政治、国際社会について考察や構想をしたり、表現する学習を充実すること、各国の主権の尊重と協力、国家主権、国際連合における持続可能な開発のための取組に関する学習の充実を図ること、課題の探究を通して、社会の形成に参画する態度を養うことを重視すること等、取り扱いが変化している。

協議会において、取りまとめた中学校社会公民的分野の全発行者の特長は、別添2の16ページから17ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、「アクティビティ」において、学習内容の理解が深まるようにグループ活動を設定し、言語活動の充実が図られるような配慮がなされているということである。

次に、B者は、「アクティブ公民」「技能をみがく」において、他教科等との関連を図り、主体的で深い学びの実現とともに、汎用的な知識が習得できるように工夫されている。

次に、C者は、冒頭でSDGsを示し、各ページにもSDGsの項目との関わりを明記することで、身近な地域の伝統文化と世界の文化への理解を促し、多文化共生の態度を育成できるように工夫されているということである。

次に、D者は、「みんなでチャレンジ」等、対話的な学習の場面を設けることによって、言語活動の充実が図られるように配慮されているということである。

次に、E者は、日本の年中行事や伝統文化に関する資料を多く紹介し、調べ活動等を通して自国の文化を見つめ直し、他国の文化についても理解を深められるように工夫されているということである。

次に、F者は、「アクティブに深めよう」において、身近な課題について話し合う活動が設定されており、言語活動の充実が配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、質問などあればお願いしたい。

里 村 委 員 日本国憲法に関して、全条掲載している教科書と、一部しか掲載していない教科書がある。文部科学省では法の掲載についてどのように取り扱っているのか確認させていただきたい。

指 導 主 事 学習指導要領では、法に関する学習について、法が規定している内容についての理解で終わることなく、なぜそのような規定があるのか、規定を設けた基本的な考え方や意義を理解できるようにすることとされている。

全文を掲載したり、一部を抜粋したりという規定はない。法に関する学習のねらいに沿ったものであればよい。

教 育 長 他にご質問等ないか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、教科書各見本本について委員からご意見をいただきたい。

花 輪 委 員 私たちは社会の中で他者と関わり合い、国にあっては他国と協調しながら生きていくことになるが、その中で求められる公民としての知識と技能を身に付け、より良い社会を創るために必要な力を養うことがこの公民という教科ではないかと思う。

今回、公民には6者から提案があったが、いずれの者も教科の目的を達成するように工夫された教科書である。外形的なところから述べると、判は6者ともA B判である。ページ数は、多い者が264ページ、少ない者が235ページで、30ページの差はあったが、特に気になるようなものではなかった。

教科書の構成だが、章立ては各者でかなり違いがある。学習指導要領では、現代社会、経済、政治、国際社会の諸課題の4分野構成だが、各者それぞれの考え方で章立てを行っている。

この構成が特長的な者については、以下の寸評の中で触れたいと思う。

まず、A者である。この者の構成は、4分野の中で政治の分野を「個人の尊重と日本国憲法」、「国民主権と日本の政治」の2章に分けていること、最後の編に、「私たちの課題」として「持続可能な社会をめざして」を設けていること等が特長である。

表紙は見開きで、「これからの社会をどんな社会にしたい？」とSDGsを紹介しており、国際社会の編とあわせ、持続可能な社会を創ろうと呼びかけている点が印象的である。

本文は、見開き2ページの中に本文、資料、グラフ、写真、イラストを配置し、最初に「学習課題」、最後に「確認」の欄を付けることで完結させている。この者は、深い学びのために「アクティビティ」と称するコーナーを、40以上も設けて学習を深め

られるような問いかけをしている。

また、学習内容の理解を深めるために、「公民＋α」のコラムも多数配置している点も特長である。

さらに、生徒と先生のキャラクターを登場させ、考えるポイントやヒントを与えている。

次に、B者である。この者の構成は、4分野4部構成だが、1分野を2つの章に分けて8章構成にしている点が特長である。中でも、経済を扱った第3部では、「第1章 市場経済」と「第2章 財政」を一緒に掲載している点が印象的である。経済、財政的なものの見方の醸成を図ったものと言える。

また、歴史や地理といった社会の他の分野の教科書と同様、主体的な学びとともに対話的な学びや深い学びにつながる関連補助資料やコラム活動を数多く掲載している点や用語解説が充実している点も特長と言える。

学習を始めるに当たって、「学習の前に」を設け、学習のポイントを示す工夫をしている。主要な項目は、見開き2ページに「学習課題」、本文や資料、写真、イラスト、最後に「確認しよう」「説明しよう」の欄を掲載しているが、教科書全体で定型化されているので、見やすいものになっている。

なお、参考資料のコラムに「先輩たちの選択」が6項目あるが、これは様々な分野で活躍している人を紹介しており、読み応えもあり、大変良い企画である。

C者である。この者の構成は、政治を「個人を尊重する日本国憲法」と「私たちの暮らしと民主政治」の2つに分けたことと、経済を「私たちの暮らしと経済」と社会保障制度を扱った「安心して豊かに暮らせる社会」の2つに分けたことが特長である。政治と経済をバランスよく扱おうとする姿勢の表れだと思う。また、「私たちが未来の社会を築く」と題し、SDGsの紹介を含めた最終章を置いていることも特長である。

「教科書の使い方」の説明の後に、4ページにわたり「公民にアプローチ」を設け、情報の入手の仕方について解説しており、大変良い解説である。この者は、学習コラムを数多く掲載している点が特長で、「公民の窓」38テーマ、技術や表現を養うための「公民の技」が10テーマある。また、グループでの学習のテーマも多く掲載されている教科書である。

章末には、「学習のまとめと表現」とともに「言葉で伝え合おう～プレゼンテーション」を設けるなど、とりわけ表現力を身に付けさせるための工夫をしているということが印象的である。

次に、D者である。この者は、4分野のうち、政治を「個人の尊重と日本国憲法」と「現代の民主政治と社会」の2つに分け、終章として「より良い社会を目指して」を置いた4分野6章の構成としている。この者は、他の社会科の教科書と同じく、課題の追究を深めるために「みんなでチャレンジ」、「スキル・アップ」、「見方・考え方」のコーナー等を多数掲載している。

各章は、「導入の活動」から始まっているが、グループでの学習活動の中で、各章で学ぶ内容のポイントが押さえられるよう工夫されている。学ぶ項目は、それぞれ2ページにまとめられている。これらは定型的に配置されているので、多くの内容が扱われているものの、見やすい教科書になっている。

また、「探究のステップの問いを解決しよう」の次に、「第〇章の学習をふり返ろう」、

「まとめの活動」と続き、最後に「もっと公民」というコラムを挿入しており、章末のまとめが充実している点が印象的である。

E者である。この者の構成は、4分野のうち、政治に関する部分を「日本国憲法の基本原則」と「民主政治と政治参加」の2章に分けて、比較的分量を割いて説明している点が特長と言える。

グループの活動として各章の初めに、例えば「政治への入り口」と題し、その章に関連した問題を提起する見開きのページを設け、導入を図る工夫を行っている。大項目で4箇所、小項目で13箇所設けられている「やってみよう」のコーナーにおいてもグループでの学習活動を提案しており、グループでの学習活動に力を入れている印象を受ける。

また、大項目で7箇所、小項目においては40箇所以上設けられている「学習を深めよう」では、本文に関連する知識や情報を、主に文章を使って与えている。さらに、巻末には「社会科のまとめ」を掲載し、テーマを決めてレポートを作成するよう促している。

この者も非常に見やすい教科書となっている。資料を豊富に提示し、グループでの学習活動で力を付けさせようと意図している教科書である。

次に、F者である。この者の構成は、日本の現状をまとめた序章と、「持続可能な社会を目指して」と題する終章を設け、その中に現代社会、政治経済、国際社会を扱う5つの章を置いた構成となっている。

政治に関するページでは、「立憲国家と国民」と「日本国憲法と立憲的民主政治」の2つの章を置き、かなりの分量を割いて国民の政治参加への重要性を論じている。この者は、全ての章を通して項目に番号を記載している点が特長で、全部で72の項立てになっている。

1つの項目は、見開き2ページで、言葉による表現を主としており、グラフ、表、写真、イラスト等の補助資料を抑制したものになっている。

巻末には、学習のポイントとなる「学習のまとめと発展」がある。また、所々に「アクティブに深めよう」のコーナーがあり、グループでの学習活動を促している。さらに、「もっと知りたい」コーナーを20数箇所も設け、本文に関連する事項の知識や情報、エピソードを紹介している。

巻末には、「課題の探究」欄があり、レポートや卒業論文を作ること、あるいは「ディベートをやってみよう」等のコーナーがあり、この者もグループでの学習活動に力を入れている。

阿子島 委員 A者である。巻頭に、「これからの社会をどんな社会にしたい」とSDGsを明記し、「地理・歴史とのつながり」、「公民を学ぶにあたって」、そして「教科書の構成と使い方」が掲載されている。

少子高齢化、情報化、グローバル化等の現代社会の特長を的確に捉えており、具体的な資料を用いて考えさせ、生徒の将来に生かせるように工夫されている。

教材は、現代社会、政治、経済、国際社会、私たちの課題の順番で配列されており、系統的・発展的に進められるように工夫されている。

題材ごとに「確認」のコーナーが設けられ、基礎・基本の定着をねらいとした学習活動や問いを提示し、習得した知識・技能を用いて文章化・言語化できるように工夫されている。

「明日に向かって」や「公民+α」等のコーナーは、身近な地域の抱える課題を考えたり、生徒の社会参画を促したりするための手掛かりとなると感じた。「アクティビティ」では、習得した知識を使い、見方・考え方を働かせながら考察する問いを設けており、生徒による主体的・対話的で深い学びが進められるように工夫されている。「連携コーナー」では、地理的分野や歴史的分野、小学校での学習内容との連携を示している。

人権の学習において、紙面に点字を用いたり、身近なバリアフリーを紹介したりして、社会生活への関心と社会参画の意義を高める工夫がなされている。

ユニバーサルデザインを使用しており、全ての生徒が文字や図版類を読み取りやすいように配慮されている。

次に、B者である。目次の次に、「この教科書の学習のしかた」、「公民的分野の学習の全体像を見通そう」を掲載し、学習の流れが見通せるようになっている。

社会的な問題を本文やグラフで示し、生徒がこれからの社会に参画していく必要性を解説するなど、公民としての資質・能力の基礎を育成できるように配慮されている。

実生活に関する身近な事項について、大きな写真や親しみやすいイラスト等の資料を用いて提示することで、学習内容への関心を持たせるように工夫されている。

現代社会、政治、経済、国際の4つの部を章として設置するとともに、見開きの3段階で構成し、それぞれの「問い」と振り返りを設け、学習の見通しとまとめができるように配慮されている。

「先輩たちの選択」のインタビューを通して、文化や継承、民主政治、労働の意義、世界の平和を取り上げ、社会参画への意欲を高められるように工夫されている。

また、豊富なコラムを取り上げることで、発展的な学習へと進めたり、自分の住む身近な地域の伝統文化の事例を取り上げて課題に取り組みせたりすることで、自分事として学習に取り組むように工夫されている。

「アクティブ公民」において、ディスカッションやロールプレイング等の手法を用いることで、主体的・対話的で深い学びや技能の定着等を図るよう工夫されている。

カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントを採用することで、誰にとっても見やすくなるように工夫されている。

次に、C者である。巻頭から「現代を生きる私たち」、「公民の学習を始めるにあたって」「教科書の使い方」に続き、「公民にアプローチ～メディアを活用しよう～」が掲載されている。

現代社会に対する関心を高め、様々な社会的事象について多面的・多角的な見方により考察し、公民としての基礎的教養を培う内容となっている。内容が精選されるとともに、今日的な課題をテーマにした特設ページを多く設け、発展的に学習することができるように配慮されている。

公民的分野の4つの大項目に示された内容を系統的・効果的に学習することができるように、全体を4つの領域に分けて構成している。各章末に「学習のまとめと表現」を設け、対立と合意、効率と公正の概念と見方・考え方を考察・表現する力が身に付くように工夫されている。

また、本文の学習ごとに「確認!」と「表現!」のコーナーを設け、社会的事象について説明や話し合い等の表現活動に取り組めるように工夫されている。さらに、「公民の技」のコーナーでは、公民の学習で身に付けたい技能を養うことができるように



工夫されている。

「関連」コーナーでは、各時間の学習内容と関連する小学校、他分野、他教科等の学習が紹介されている。また、第5章の「安心して豊かに暮らせる社会」では、「私たちの15年を振り返ってみよう」というコーナーがあり、生徒にとって公民を身近なものに感じるきっかけになるものと感じた。

写真、イラスト、地図、グラフ、図解等の資料が豊富で、視覚的に捉えやすく配置されている。

次に、D者である。巻頭に、「持続可能な社会の実現に向けて」、「公民学習の初めに」そして「この教科書の使い方と学び方」を詳しく掲載している。東日本大震災からの復興や防災対策の現状と課題について、具体的な事例を通して深く考えられるように配慮されている。

本文では、仙台市を例に考えられている。中学生が社会参画している事例や日常生活に関する身近な話題を取り上げることで、より良い社会の形成に関わる意欲や態度が高まるように配慮されている。

初めに、公民学習の基盤である人権と憲法を学習し、経済については、政治や政策との関連から学習を深められるようにするなど、学習内容が系統的に配列されている。また、単元全体を貫く探究課題を設定しており、各章のねらいが明確で、まとまりのある内容になるよう工夫されている。

各見開きに短時間の説明、要約等の学習をまとめられる「チェック&トライ」を設け、思考力、判断力、表現力等を高められるように工夫されている。

「もっと公民」では、生徒が主体となって行う活動が数多く取り入れられ、「みんなでチャレンジ」では、対話的な活動が効果的にできるように工夫されている。

漫画やイラストを豊富に掲載し、生徒が興味・関心を持って学習を進められるように配慮されている。

カラーユニバーサルデザインによって図表等は誰でも見やすいように配慮されている。

次に、E者である。巻頭の「持続可能な開発目標（SDGs）」「なぜ『公民』を学ぶのか」「『公民』について」の後に「目次・教科書の使い方」が掲載されている。公民としての基礎的教養を培うために厳選された教材、資料を通して、世の中の変化や現代の課題を多目的・多角的に考察できるように配慮されている。

小学校での学習内容を各章の扉で、地理的・歴史的分野の学習内容を該当する見開きで紹介することで、小・中学校の系統性や3分野との関連性を高める配慮がなされている点が良い。

図やグラフ、写真等に理解を深めるための解説を付けるなど、生徒が興味・関心を持って学習できるように工夫されている。

つかむ、調べる、まとめるという問題解決型の学習過程の流れを明確にし、生徒が幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるように配慮されている。

各章の初めの「〇〇の入り口」では、これから学習する内容が自分たちにどのように関わっているのかを考えさせるような内容が工夫されている。「学習のまとめ」や章末の「〇〇のこれから」で知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成が図られるように工夫されている。

新聞記事を多数掲載し、新聞を活用した教育を促すとともに、芸術や科学技術のコ

ラム等を設け、他教科等との関連にも配慮されている。

「学習を深めよう」では、本文に関する内容を取り上げ、「スキルアップ！」で言語活動の充実のための学習が展開できるように配慮されている。

図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の資料や表示の工夫を行い、生徒が見やすいように配慮されている。

次に、F者である。目次の次に「この教科書で学ぶにあたって」、「各章末の『学習のまとめと発展』の取り組み方」が掲載されている。

基礎的・基本的内容から発展的な内容へと系列的に配置し、対立と合意、公正と効率等を具体的に取り上げ、思考力、判断力、表現力等を育てるように工夫されている。

多くの先人が残した功績とそれによって築き上げられてきた制度や仕組みを数多く紹介することで、生徒の学習意欲を高めるように配慮されている。

各章では、基礎的・基本的な事項の理解を図るように工夫されている。また、終章では、各章の学習を発展させ、持続可能な社会の形成者としての態度等を培うように工夫されている。

「もっと知りたい」では、それぞれの学習を深く掘り下げており、社会的事象への思考を発展させられるような印象を受けた。「アクティブに深めよう」では、身近な内容を基にグループで話し合うことで、対話を通して考えを深められるように配慮されている。言語活動の充実を図ろうとしている点が良い。

公民に関連した史実が確かめられるように工夫されているほか、「日本人の精神」や「科学とは何だろう」、「芸術とは何だろう」等、横断的・総合的な学習ができるように工夫されている。

単元の見出しはシンプルで、イラスト付きのコメント等が親しみやすく表現されている。また、章ごとに色分けされ、活用しやすいように配慮されている。

中 村 委 員 A者から申し上げる。巻頭に「地理・歴史とのつながり」、巻末に「高校とのつながり」についての内容があり、中学校の社会科から高等学校の公民科へとつながりが示され、系統性に配慮されている。

学習内容に関連する事柄を紹介している「公民+α」では、生徒が興味・関心を持って学習を深められるように工夫されている。

「情報スキルアップ」では、学習を進めるに当たり、必要な知識・技能や注意点を詳しく解説しており、学習の手助けとなるよう配慮されている。

「チャレンジ公民」では、各編の最後に、学習に関連した具体的な課題が示され、考察・構想することで主体的に学べるように工夫されている。

ページの下部に地理や歴史とのつながりを示す「連携コーナー」があり、既習の知識を生かすことができるように工夫されている。

「アクティビティ」では、学習内容の理解を深められるように工夫されており、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されている。

B者である。「技能をみがく」では、公民の学習をする上で必要な基礎的な技能を詳しく解説しており、学習の手助けとなるように配慮されている。「先輩たちの選択」では、インタビューを通し、文化の継承、民主政治、労働の意義、世界平和を取り上げ、広い視野を持ち、社会参画へ意識を高められるように工夫されていて、良い取組である。

ページの下部に学習内容に関連した小学校での既習事項や地理、歴史との関連が示

されており、学びの継続性が分かるように工夫されている。

「章の学習を振り返ろう」のページでは、知識を定着させ、問いに対し自分の意見を深め、思考力、判断力、表現力等を養えるように工夫されている。

学習内容に関連する実社会の動きを紹介している「公民プラス」では、生徒が興味・関心を持って学習内容を深められるようなコラムとなっている。「アクティブ公民」を設け、課題について社会的な見方・考え方に基づいた論理的な思考力、判断力、表現力等を身に付けられるように工夫されているとともに、主体的・対話的な学習ができるように配慮されている。

C者である。「公民にアプローチ」では、各種のメディアについて多面的に考え、これからの学習にも活用できるように工夫されている。

学習コラム「公民の窓」が豊富で、学習内容の関連情報が多く掲載され、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。

「公民の技」では、課題を通じ、公民学習で身に付けたい技能や表現を養うことができるように工夫されているとともに、主体的・対話的な学習ができるように配慮されている。

「読んで深く考えよう」では、テーマを設定し、意識の焦点化を図り、資料を読み深めて思考力が育成できるように工夫されている。

また、各章の冒頭に「学習のはじめに」を設け、これからの学習の見通しを持たせ、社会的事象に興味・関心が向けられるように工夫されている。

D者である。各章の冒頭では、小学校で学習した内容や写真、イラスト、また地理、歴史との関連性等も生かしながら、学習の見通しを持たせることができるように配慮されている。

「みんなでチャレンジ」のコーナーでは、言語活動を充実させ、対話的な学びができるように配慮されている。

「もっと公民」では、学習内容を深めたり、広げたりするなど、異なる視点で捉えられるようになっており、学習内容を踏まえ課題を主体的に考えられるように工夫されている。

「スキル・アップ」では、公民の学習を進める上で基礎的・基本的な技能を身に付けられるように工夫されている。

ページの下部に「チェック&トライ」が掲載されており、学習した基礎的・基本的な知識を生かして思考力、判断力、表現力等を養えるように工夫されている。他教科でも扱う内容には、「教科関連マーク」が付けられ、教科を横断して学習の確認ができるようになっている。

E者である。各章の冒頭ごとに「〇〇の入り口」が設定されており、学習内容への興味・関心を促し、章の終わりには「〇〇のこれから」を掲載し、発展的な学習に取り組めるように工夫されている。

「学習を深めよう」で、学習内容に関連した課題を取り上げ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。

「スキルアップ！」では、公民の基礎的な技能を身に付けられるように配慮されている。また、各章に学習のまとめがあり、これまでの学習の定着を図るとともに、主体的な学びができるように工夫されている。

「やってみよう」と特設ページがあり、課題を自分の事として捉えることで、主体

的で対話的な学びができるように工夫されている。

F者である。「アクティブに深めよう」では、身近な課題に触れ、話し合い活動やディベートの手法を取り入れ、言語活動を充実させ、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。

コラム「もっと知りたい」が豊富に掲載されており、学習内容に関連した事柄を深く理解できるように工夫されている。「ミニ知識」、「ここがポイント！」が掲載されており、教科書の内容を補充し、重要語句や社会的事象を確実に理解できるように配慮されている。

「学習のまとめと発展」のページを設け、学習内容を振り返り、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られるように工夫されている。また、調べ学習に取り組みやすく発展的な学習ができるように工夫されている。さらに、終章に「課題の探究」として、ディベートの実例を挙げ、実際に行う活動があり、生徒同士のコミュニケーションを深め、対話的な活動ができるように工夫されている。

全体的にすっきりしていて読みやすく、色も多過ぎず、落ち着いて学習することができるように配慮されている。

里 村 委 員 A者だが、第1編において、漫画で「私たちと現代社会」を説明するなど、公民への親しみやすさに配慮した編集である。持続的な社会の説明では、「エネルギーの地産地消」に触れるなど、幅広い見地からの教育を目指しているということが伺われる。

新聞記事を豊富に掲載することで、新聞を通じた日常生活での課題や学習への興味・関心を高められるような工夫が見られる。

巻頭と巻末で系統性に配慮しており、地理的分野、歴史的分野、あるいは高等学校とのつながりが示されている。

B者である。人権や環境等、現代社会の重要課題を積極的に取り上げており、公民が目指している発展的な学習ができるような工夫が見られる。

「現代社会の特色」から始まる「第1部 現代社会」のまとめ方が、特に分かりやすい。

「アクティブ公民」、「技能をみがく」では、他教科との関連を図り、主体的で深い学びの実現に向けて、広く知識が習得できるように工夫されている。

C者である。人権尊重について理解を深めることができるよう、人権に関する資料が豊富に掲載されていることが特長である。東日本大震災や防災等の具体的事例を掲載し、小学校での学習内容との関連性に配慮している。単元全体を貫く課題を示し、学ぶねらいを明確に生徒に伝えられるように工夫されている。また、対話的な学習及び言語活動が充実するような工夫も見られる。

D者である。内容の充実とともに、全体構成も分かりやすく、生徒の関心を高め、興味を惹起させるような工夫が随所になされている。

エネルギー問題、難民問題、貧困問題等、必ずしも容易ではないテーマも興味深い問題として整理されている。

日本国憲法、民法、教育基本法、あるいは日米安全保障条約等の記載内容がよく整理して掲載されており、特に日本国憲法では、各条にわたり、丁寧かつ分かりやすい説明を加えている。

表紙をめくり、1枚目の紙面には、現代的諸課題、環境エネルギー、情報技術、人権、平和、伝統文化の写真、図、文章を掲載し、公民の学ぶ全体観がよく分かるよう

に工夫されている。

「公民学習の初めに」では、5章からなる全体構成を分かりやすく説明しており、これに終章を加え、生徒に公民を学ぶ目的意識を醸成しようという意図が伝わってくる。

E者である。巻頭に、持続可能な開発目標（SDGs）の説明があり、円滑に学習に入れるような工夫が見られる。また、表紙の次には、「なぜ『公民』を学ぶのか」をタイトルとした概念図が学習内容を広範囲にカバーしており、地理、歴史との関係も含めて全体観を理解し、公民の学習にスムーズに入れるように工夫されている。

E者の特長の1つとして、日本の年中行事や伝統文化に関する資料が多く掲載されており、日本の文化を学ぶことで他国の文化についても理解を深められるように工夫されている。

グローバルなことを学ぶ第一歩は、まず日本のことをよく知ることだと言う方がいるが、E者はこれに通じた編集であると思う。

F者である。外国との関わりに関する基礎的事項の選択について、特に意を配っており、日本の歴史や文化を尊重する態度を学ばせる工夫がなされている。

学習の発展では、調べ学習に取り組みやすく、発展的な学習ができるように配慮されている。

あわせて「ミニ知識」、「ここがポイント！」を設定しており、重要語句や社会的事象をしっかり理解できるように工夫されている。

色づかいが工夫されているとともに、親しみやすいキャラクターを用いて全体的にすっきりした構成にもなっている。

吉田委員 公民も他の教科と同じく、授業改善の3つの観点から見させていただいた。

初めに、A者についてである。大単元の見開きの導入ページに、学習内容に関する身近な場面を、数コマの漫画で示し関心を高めるとともに、学習の見通しが立てられるよう工夫している。

また、1単位時間のページ構成が見開きになっており、学習課題の設定やその解決のための道筋提案など、一定のリズムを持って学習できるよう工夫されている。

さらに、3か所に設定している情報への向き合い方を学ぶコーナーは、情報リテラシーを身に付ける機会に結び付くものと思われる。なお、大単元のまとめのページにある新聞記事の読み取り学習も同様である。

各種の時事問題をディスカッションするための思考ツールを紹介し、生徒間の話し合いが充実するよう導いている。

続いて、B者である。大単元の導入の見開きページに、公民の学習に関する身近なテーマのイラストによる提案があり、学習に対する関心を高めるものである。

また、大単元、小単元、そして1単位時間において、それぞれに多くの問いかけが設定されており、学習への見通しを持つことに役立つものである。

さらに、1単位時間が見開きページになっており、初めに課題を設定し、確認と表現という2つの観点で振り返りを行うということも、この者の特長である。

その他の振り返りについては、小単元ごとに自分の考えを持ち、討議し、改めて表現するというパターンになっており、深い学びへと結び付くものと思われる。

また、各所に設けられている身近な社会問題について、仮想場面での思考、擬似体験、様々なツールを用いた話し合いといった活動は、思考力や判断力、表現力等の向

上に結び付くものである。

次に、C者である。まず、学習への見通しについて、各単元の初めに文章で示していることが特長である。また、1単位時間のページ構成について、課題把握、学習の展開、そして振り返りとパターン化し、学習のリズムをつかみやすいものになっている。

振り返りに関しては、各時間、「確認！」と「表現！」の2つの観点で構成されている。各単元の振り返りに関しては、1ページ構成で表現力に視点を置いており、設問に対して様々なツールで思考を深め、書く、発表する、ディスカッションするなどの活動を通して、学習内容を深める場面を設定している点が特長である。

学びを深める点については、6か所に社会の身近な課題に対して仮想場面での体験などを通じた活動を設定していることも特長である。

D者である。まず、大単元の扉で、公民という名称に対して、小学校社会との関連に触れ、生徒にとって安心と期待につなげている。

また、まとめの段階の活動を、大単元の導入部に設定し、学習の動機付けを図っていることが特長である。

見通しについては、小單元ごとに設定された「探究課題」で、長いスパンの見通しを持たせている。1単位時間の課題設定や学習の流れのパターンは他者同様である。

各単元のまとめにおいては、発展学習として身近でユニークなテーマによるツールを用いた思考活動や、擬似体験的な活動で定着と発展を図っていること、各所で様々なテーマを設定し、生徒に協働で取り組ませ、社会を多面的に捉えさせようとしていることが特長である。

小単元の終わりの9か所に設けられている関連教材での学習も、深い学びに結び付くものと思われる。

次に、E者である。巻頭に、図と文章で公民の学習意義がしっかりと触れられていることが特長である。

また、大単元の扉で小学校社会での既習語句に触れ、中学校の学習へのスムーズな移行に配慮している。

さらに、各大単元の導入において、見開きによるレディネス学習が設定され、大単元全体の学習に見通しを持たせるようにしている。1単位時間の見通しについては、課題の設定から始まり、他者同様の学習過程になっている。

振り返りに関しては、1つの観点からの振り返りになっており、大単元のまとめにおいては、重要語句と事象の確認作業とともに表現活動が一部設けられている。

また、各単元の中での特設ページは、様々な世界で活躍した人物や事例を取り上げ、それらに関する調べ学習や話し合いを通して、学びを深めることに結び付けている。

最後に、F者である。F者は、本編の学習に入る前に、身近な社会的事象を確認するという過程を踏んでいる。1単位時間の紙面構成が本文を軸にして精選された資料がレイアウトされ、余裕ある編集内容となっている。

1単位時間の振り返りは、発展学習の提案という形態を取っている。また、大単元ごとの学習の振り返りに関しては、いくつかのテーマから選択して、400字にまとめるという活動になっている。表現力を中心に総合的な力の育成を目指していることが伺える。

その他、大単元の終わりに設定されている話し合い活動、企画書や提案書の作成、新聞報道の比較などは、深い学びへと結び付くものである。

教 育 長 委員から各発行者の特長についてご意見をいただいた。6者から3者に絞り込みを進めていきたい。各委員が推薦する3者を挙げていただきたい。

中 村 委 員 B者、C者、D者である。

里 村 委 員 A者、B者、D者である。

吉 田 委 員 A者、B者、D者である。

花 輪 委 員 B者、C者、D者である。

阿子島 委 員 A者、B者、D者である。

教 育 長 A者が3、B者が5、C者が2、D者が5という結果から、A者、B者、D者の3者で更に議論を進めていきたいと思う。

それでは、この3者について、改めてご質問などがあればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、1者に絞り込みをしていきたい。

各委員、1者選んでいただき、それぞれご意見を頂戴したい。

里 村 委 員 私はD者を推したい。1つは、「現代社会と文化」において、D者は「グローバル化」、「少子高齢化」、「情報化」、「持続可能な社会に向けて」の4つの柱を挙げている。現代社会を表すときに、この4本柱の指摘は良いと思う。

2つ目は、憲法を初めとした法令の説明が軸になっていることである。多くの発行者は憲法については全条を掲載して説明しているが、D者はポイントを突いた説明になっており、一番分かりやすい。

3つ目は、D者の教科書の53ページに「インクルージョン」という言葉が入っている。この「インクルージョン」はグローバル化、あるいは差別をしない気持ちということであり、多様化していく中で必要なキーワードである。私がチェックした限りでは、「インクルージョン」という言葉を使用しているのはD者だけである。

吉 田 委 員 私もD者を推薦したい。その理由として、この編集の内容に起承転結を感じ取ることができるためである。

学習の動機付けとして、政治や法律が自分たちの身の回りの生活にあるということを感じられるよう、導入の段階でユニークなテーマにより色々な活動をさせることから始まっている。展開の面では、各者甲乙付け難い内容だが、D者のまとめが充実している。また、動機付けの場面における身近なことを題材にした活動のテーマを、まとめの場面においても再度触れる構成になっている。これらの点から、起承転結がしっかりした編集であるという印象を受けたD者を推薦したい。

阿子島 委 員 どちらの教科書もコラムなどが多く掲載され、内容が非常に充実しているが、漫画を使い、視覚的に見やすいのはD者の教科書ではないかと思うので、D者を推薦したい。

中 村 委 員 大変迷うところであるが、学習の最初から最後まで飽きさせることなく、子どもたちが興味・関心を持ってできるような導入と、課題、まとめへのつなげ方が最も良いと感じたD者を推薦したい。

花 輪 委 員 他の委員の分析はもっともであり、推されたD者で納得する。ただ、学ぶリズムを考えると、やはりB者も捨てがたい。

教 育 長 いただいたご意見を踏まえると、D者が採択の候補としてよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、公民については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として事務局に

整理していただき、7月29日に最終的に決定してまいりたい。

以上で、令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書（中学校）の地理、地図、歴史、公民の採択についての協議を終了する。

4 閉 会